

第五十一回帝國議會
衆議院

勞働爭議調停法案(政府提出)外一件(勞働爭議調停法案(政府提出)治安警察法中改正法律案(政府提出)勞働組合法案(政府提出)委員會會議錄(速記)第五回)

會議

大正十五年三月一日(月曜日)午前十時
三十九分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 森田 茂君

理事 杉浦 武雄君

理事 安藤 正純君

理事 藏園三四郎君

理事 山口 政二君

高橋元四郎君

加藤 鯛一君

内ヶ崎作三郎君

比佐 昌平君

木暮武太夫君

森 恪君

渡邊 伍君

有馬 頼寧君

栗林 五朔君

本多貞次郎君

清瀬 一郎君

三月一日委員熊谷直太君辭任ニ付其ノ
補闕トシテ同日森恪君ヲ議長ニ於テ選
定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

陸軍大臣 宇垣 一成君

出席政府委員左ノ如シ

外務參與官 永井柳太郎君

外務省條約局長 長岡 春一君

內務參與官 鈴木富士彌君

社會局長官 長岡隆一郎君

陸軍主計總監 三井清一郎君

陸軍中將 畑 英太郎君

陸軍一等主計正 小野寺長治郎君

海軍少將 小林 躋造君

鐵道政務次官 降旗元太郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

勞働爭議調停法案(政府提出)

治安警察法中改正法律案(政府提出)

勞働組合法案(政府提出)

○森田委員長 ソレデハ是カラ開會致
シマス、清瀬君ノ留保ノ分ニ付テ御質
問ヲ願ヒマス

○清瀬委員 調停法第十九條ノ當事
者、ソレカラ現ニ其爭議ニ關係ナキ者、此
二點ニ付テ、先般長官ヨリ、司法當局ト
協定ノ結果ナリトシテ朗讀サレタノデ
アリマスガ、朗讀デアッタ爲ニソレガハ
キリシナカッタ、只今刷物ヲ廻サレマシ
タガ、ソレニ依テ順々ニ御聽キ致シマ
スガ、初メノ爭議ニ關係ナキモノ、其點
デアリマスガ、勞働組合トカ、法人ナラ
ザル勞働者ノ團體、ソレヲ單位ト見テ、
ソレ自身ハ關係アルモノデアリマス
カ、ナイモノデアリマスカ、是ニハ幹部
ト云フコトガ書イテアリマスガ、幹部
デモ其勞働組合ノ法人ニナリマスカ
ラ、勞働組合自身ハ關係ガアルカナ
カ、之ヲ聽キタイト思ヒマス

○長岡政府委員 只今ノ御質問ハ此文
字ノ中ニ略明カニナッテ居ルト存ジ
マスガ、特定ノ使用者ト勞働者トノ紛
議ノ場合、ソレカラ使用者ト勞働組合ト
ノ紛議ノ場合、此二ツニ分ケテ書イテ
アリマス、御質問ノ場合ハ使用者ト勞
働組合トノ紛議ノ場合ヲ指シテ居ルト
考ヘマスルガ、其場合ニ於キマシテハ、
勞働組合ノ幹部ハ無論關係ガアルノデ
アリマス、ソレカラ勞働組合ノ中デ其
使用者ニ使ハレテ居ル組合員ハ無論關
係ガアルノデアリマス、所ガ其爭議ニ
關係ノナイ工場ノ者、例ヘバ神戸ノ或
ル紡績工場デ勞働爭議ガ起ツテ居リ、而
シテ其相手方デアル勞働組合ハ、東京、
京都、神戸ト此三箇所ノ紡績業ニ從事
シテ居ル者ガ一ツノ組合ヲ造ツテ居
ル、斯ノ如キ場合ニ於テハ、東京、京都
ノ勞働組合員ハ幹部以外ノ者ハ神戸工
場ノ爭議ニ關係アルトハ言ヘマイト思
フ

○長岡政府委員 其場合ニ於テモ法人
處罰ノ規定ガ此法ニハゴザイマセスカ
ラ、違法行爲ニハナルマイト思ヒマス

○清瀬委員 サウスルト長官ノ御意見
ハ分リマシタガ、法人ソレ自身モ當事
者デ關係ガアルデスカ

○長岡政府委員 法人自體ハ關係アル
モノト見テ宜カラウト思ヒマス、一寸
此際附加ヘテ申上ゲタイコトガアリマ

ス、マダ御質問ヲ御繼續ノコト、思ヒマスガ、此前ノ清瀬君ノ御質問ニ對シマシテ、私ハ勸誘ト云フ文字ト煽動誘惑ノ文字ヲ全然同一ノ意味デアルト云フコトヲ申上ゲマシタ、サウシテ同じ意味デアルカラコンナコトハ大シタモノデナイト云フヤウナコトヲ申上ゲタガ、其事ハ私トシテ少シ言ヒ過ギマシタノデ、政府ノ態度云々ト言ヒマシタコトハ取消シテ置キマスカラ、御諒承ヲ願ヒマス、今一ツ發言ノ許可ヲ得マシタ序デニ簡單デアリマスカラ申上ゲテ置キマスガ、最近十箇年間に於ケル同盟罷怠業調査表ト云フモノヲ此前ニ差上ゲテ置キマシタ、本日又同盟罷怠業年別損失日數調ヲ差上ゲテアリマス、尙ホ同盟罷怠業(怠業ヲ含ム)結果別表モ差上ゲテアリマスガ、其數字ニ多少ノ間違ガアリマス、ソレハ大正十四年ノ分デアリマスガ、結果表ノ中ニ於テハ大正十四年ハ二百九十一ト云フコトニナッテ居リマスシ、最近十箇年間に於ケル表ト、損失日數調ノ方ニハ同盟罷怠業——怠業ヲ含ムモノ、件數ガ二百九十五トナッテ居リマシテ、其間ニ四件ノ差ガアリマスガ、是ハ大正十四年ノ年末ノ調査デアリマスカラ、其時ニハマダ罷怠業ノ結果ガ分ラナイ、終了シテ居ナイト云フノガ四件、即チ本年ニ持越シタ罷怠業ガ四件アリマス、隨テ結果表ノ中ニハ二百九十一件トナッテ居リ、最近十箇年間ニ於ケル同盟罷怠業調査表等ニハ二

百九十五件トナッテ居リマスノデ、十五年度ニ持越シタト云フヤウナ意味デ數字ニ相違ガアルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、ソレカラ尙ホ木暮君カラ罷業ニ依テ損失シタ日數ト賃銀トノ關係ヲ知リタイト云フ御質問ガアリマシタガ、遺憾ナガラ其賃銀ニ付テハ調査ガアリマセヌノデ、將來ハ之ヲ調べ置カナケレバナラヌト思ヒマスガ、現在ニ於テハマダアリマセヌノデ、平均日數ニ賃銀ヲ掛ケテモ非常ニ不自然ナル數字ガ出マスシ、ソレカラ損失日數ノ中ニハ同盟罷怠業ニ關係シナイ者モ損失日數ノ中ニハ入レテアリマスノデ、例ヘバ最近ノ神奈川縣下ニ於ケル某紡績工場ノ同盟罷怠業ニ參加シタ者ハ數百人デアリマスガ、機械ノ要部ニ關係ノ者ガ罷業致シタ爲ニ、實際罷怠業ニ關係シナイ者マデモ働クコトガ出來ナイデ、千人以上ノ者ガ損失シテ居ルノデアリマス、サウ云フモノニ付テハ調査ハ十分デアリマセヌノデ、此損失日數ノ調ハ不完全ナモノデアリマシテ、唯罷怠業ニ關係シタ者ノ損失日數ダケシカ計上シテナイト云フヤウニ御了解ヲ願ヒタイ、此事ハ木暮君ニハ非公式ニ御答ヘシテ置キマシタガ、皆様ニモ其表ヲ差上ゲマシタカラ、答辯ノ機會ヲ利用シマシテ御説明旁御答ヘ申上ゲタ次第デアリマス

○清瀬委員 前ノ質問ニ對スル御答辯ニハ斯ウ云フ二ツノコトガ含マレテ居ルト考ヘテ宜シイト思ヒマス、即チ今同ノ勞働組合法ニ依テ、法人タル組合ガ爭議ニ關係スルトキニハ、其法人ハ一單位トシテ爭議ニ關係アルモノト爲ス如キモノデハナイト云フノガ一ツ、法人ガ其機關、即チ總會ニ於テ罷業ノ決議ヲ爲シタ場合ニ、其決議ノ内容ガ假令勸誘ニ涉ル文字ガアツテモ、ソレハ處罰サルベキ行爲デハナイ、斯ウ云フ二ツデアリマス、ソレカラモウ一點、是ダケデスカラ御辛抱ヲ願ヒタイ、即チ當事者ノ問題デアリマス、ト云フノハ十九條ノ法文自身ニ目ヲ注イデ載キタイノデアリマスガ「現ニ其ノ爭議ニ關係ナキ者ハ第九條ニ規定スル調停手續ノ終了ニ至ル迄左ニ掲クル目的ヲ以テ當事者ヲ勸誘スルコトヲ得ス」トアツテ、目的ハ主トシテ罷業ノ目的デアリマスガ、此當事者ハ如何ナルモノカト云フト、第二條ニ於テ通知ヲ受ケタル當事者デアリマス、是ハ只今ノ釋明書ニ在ル通りデアリマス、サウスルト一ツノ工場ニ機械部ノ勞働組合ト、ソレカラソレヲ使フ所ノ、例ヘバ紡績ナラバ紡績職工ノ勞働組合ト、先ヅ二ツノ組合ガアルト簡單ニ假定致シマス、爭議ノ初メニ於テハ、主トシテ機械部ノ者ガ如何カ機械ノ事ニ關聯シテ罷業ヲ仕掛ケテ居ッタ、ソコデ問題ガ大キクナラヌ中ニト云フノデ、第二條ノ規定ニ依テ其時ニ機械部ニ對シテ通知ヲスル、即チ機械組合ト云フモノハ爭議ノ當事者ニ

ナッテ居ル、第二條ノ通知ヲ受ケタカラシテ、勞資雙方共委員ヲ選任シテ調停手續中デアアル、其時分ニ當事者ガ二條ノ通知ヲ受ケタ、當事者ト云フコトニナルト云フト、機械部ダケガ當事者ニナッテ、「當事者ヲ勸誘スルコトヲ得ス」ダカラシテ、機械部ガ機械部ヲ勸誘スルコトハ出來ヌガ、紡績部ト云フモノヲ勸誘スルコトハ構ハヌ、斯ウ云フコトニ文字ノ解釋カラハナルヤウデアリマスガ、立案者ノ考ハ逆デ、今罷業シテ居ル者ハ勸誘モ糞モナイ、其奴ガ他ノ奴ヲ連レテ來ルコトガ所謂勸誘デアラウト思ヒマス、此文字ハ逆ニナッテ居ルノデハナイカト云フ疑ヲ持ッテ居ルノデアリマスガ、ソレデ宜シイノデアリマスカ、即チ「當事者ヲ勸誘スルコトヲ得ス」ト云フノハ、當事者ガ外ノ者ヲ勸誘シテモ構ハヌト云フコトニナルノデアリマスガ、當事者以外ノ者ヲ進ンデ勸誘シテ、罷業ノ範圍ヲ廣クシテハナラヌト云フヤウナ意味デアラウト思ヒマスガ

○長岡政府委員 此法律ハ勞働爭議調停法デゴザイマスルカラ、爭議ニ關係ノナイ者、爭議ニ加ハッテ居ラヌ者ノコトハ何モ規定シテゴザイマセヌ、隨テ只今ノ當事者ト云フノハ御解釋ノ通りデアリマス、其結束ヲ固クスル爲ニ、罷業ニ關係アル當事者ヲ勸誘スルコトヲ十九條デ取締ッテ居ルノデアリマスガ、全然爭議ニ關係ナイ者ハ本法ニ關係ハ

ナイノデアリマス、御質問ノ趣旨モサ
ウデアルト思ヒマス

○清瀬委員 私ノ質問ハ是デ宜シウゴ
ザイマスカラ、他ノ委員カラ御質問ヲ
願ヒマス

○藏園委員 モウ一般のノ質問ハ終リ
マシテ、殆ド逐條の質問ニ、今日私カラ
移ラウト思ッテ居ルノデアリマスガ、唯
一ツ一般のニ涉ッテ御尋ヲ致シテ置カ
ナケレバナラヌコトハ、國際勞働ニ關
スル原則ニ付デアリマス……

○熊谷委員 議事ノ進行ニ付一寸委
員長ニ御伺ヒシマス、是マデハ一般の
ノ質問デアルヤウニ考ヘテ居ッタ、然ル
ニ清瀬君ノ御質問ハ一般のデナイ、大
部細カイ點マデ御質問サレタヤウデア
リマス、今藏園サンハ逐條ニ這入ッテ御
質問ニナラウト云フヤウナ御考デアリ
マセウケレドモ、尙ホ一般のノモノガ
殘ッテ居ルト考ヘマスガ、此際一般のノ
モノト逐條のノモノトヲ一緒ニシテ質
問シテ宜シイノデアリマセウカ、如何
デアリマスカ

○森田委員長 チョット委員長カラ申
シマスガ、先日ノ打合セデハ、初ニ政友
會、政友本黨、新正俱樂部、憲政會此順
序デ質問ヲスル、其時ニハ總體のニ質
問ヲシテ、以後ノ進行ニ關シテハ只今
申シマシタヤウナ順序ニ依テ一應進行
シタ上ニ於テ協議ヲスル、斯ウ云フコ
トニナッテ居リマシタ、所ガ其時ニ、非
公式デアリマシタカ公式デアリマシタ

カ、委員長ヨリ、ソレデハ一順濟ンダ譯
デアルガ本日カラドウナサルカ、斯ウ
云フコトヲ御尋シタトキニ、ソレハ其
時ノ見計ニ依テ進ンデ宜カラウト云フ
御話デアリマシタカラ、實ハ藏園君ノ
只今ノ御言葉ニ對シテモ、別ニ委員長
カラ御指圖ヲスルト云フコトナシニ、
其時々々ノ模様ニ依テヤル考デアリマ
シタ、藏園君モサウ云フ工合デ寬嚴宜
シキヲ計ラッテヤッテ頂キタイと思フノ
デアリマス

○熊谷委員 委員長ノ御説明デ分リマ
シタ
○森田委員長 ソレデハ寬嚴宜シキヲ
得テ簡明ニ願ヒマス
○藏園委員 今日私ノ質問セントスル
モノハ數ハ多ウゴザイマス、併ナガラ
質問ハ極メテ簡單ニ、自己ノ意見ヲ加
ヘズシテ唯駄目ヲ押シテ行クト云フコ
トニ依テ進ミタイと思フノデアリマス、
國際勞働ノ原則ニ付テ御伺致シテ置キ
タイノハ、婦和條約ノ際ニ、平和條約十
三編ニ於テ國際勞働ノ原則九箇條ヲ定
メラレテアリマス、例ヘバ組合團體權
ノ確認、或ハ最低賃銀支給ノ原則、八時
間勞働ノ原則、外數點ヲ掲ゲテ居ルノデ
アリマス、此原則ニ基イテ萬國々際勞
働會議ト云フモノヲ開イテ、國際條約
或ハ國內立法ト云フヤウナモノニ對シ
テ、實際ニ之ヲ適用スル手續方法等ニ
付テ華盛頓第一會議以來審議決定ヲ致
シテ居ルノデアル、所ガ各國共ニ其國

情ヲ異ニ致シマスル爲ニ、或ハ留保シ
或ハ批准ヲ延引シ、或ハ批准ヲ拒絕スル
ト云フヤウナ有様ニナッテ居ル、サウシ
テ見マスト此平和條約ノ九箇條ノ原則
ト云フモノハ、殆ド何等ノ權威ノ無イ
モノ視セラレテ居ル今日ノ有様デアリ
マス、現ニ英國ノ下院ニ於キマシテハ、
昨年五月八時間勞働法案ヲ否決ヲ致シ
テ居ル、八時間勞働法案ノ原則ト云フ
モノハ、殆ド私共ハ原則トシテ國內法
トシテモ遵奉スルニ近イ規定デアルト
思ウテ居ッタガ、之ヲ現ニ英國ニ於テ否
決致シテ居ルト云フ此狀況ニ鑑ミマス
ルト、國際條約ニ於キマシテ此九箇條
ノ原則ヲ定メラレタル其モノ、遵奉ス
ベキ範圍、遵奉スベキ條項ト云フヤウ
ナモノハ、ドウ云フ風ニ見テ宜シイカ、
現在今日之ニ依テ必要ニナッテ居ルモ
ノハ、本案ト關係ノ有ル組合團體權ノ
確認デアル、斯ウ云フモノハ我國ニ於
テハドウ云フ風ニ御取扱ニナル御積リ
デアルカ、又各國ト言ウテモ廣クナリ
マスガ、最モ主要ナ數箇國ニ於テハ、ド
ウ云フ取扱ニナッテ居ルカ、言葉ヲ換ヘ
テ申シマスナラバ、此婦和條約ノ原則
ニ對スル權威、價值、——婦和條約ノ價
値ト云フモノハ之ヲドウ見テ宜シイカ、
是ハ國內立法ノ自由カラ、英國ナドハ
八時間勞働法案ヲ否決シテ居ル所ヲ見
ルト、國內立法ニ於テハ自由ナリト解
釋シテ差支ナイノデアルカ、ドウカ、尙
一ツ御伺シテ置カナケレバナラヌノハ、

國際勞働會議ニ於テ斯ウ云フ決定ガアッ
タト思フ、自作兼小作及賃銀勞働者ヲ
以テ勞働者ト看做スト云フ事ヲ決定シ
テ居ルヤウニアリマスガ、此勞働會議
ノ決定ハドノ程度マデ我國ハ遵奉セラ
ル、責任ヲ持ッテ居ッタノデアリマスカ、
之モ承ッテ置キマス、本法デハ小作人外
ノ賃銀勞働者ヲ組合ノ勞働者トスルト
云フ事ニナッテ居ル、國際勞働會議ニ於
テハ自作兼小作及賃銀勞働者ヲ勞働者
トスルト云フ原則ヲ規定シテ居ッタヤ
ウニ思フ、ソレデ私ハ之ヲ簡單ニ承ッテ
置キタイ、實ハモウ少シ立入ッテ御伺致
シタイノデアリマスケレドモ、委員長
ノ御注意モアリ且又取急イデ進行シナ
ケレバナラヌ必要モアリマスノデ、是
ダケ簡單ニ伺ヒタイ

○永井政府委員 只今ノ藏園君ノ御質
問ニ御答致シマス、藏園君ガ御話ニナ
リマシタ通り、平和條約ノ中ニ國際勞
働ニ關スル九箇條ノ原則ガ載ッテ居ルノ
デゴザイマス、是ハ平和條約ヲ締結致
シマシタ諸國ガ、人道上互ニ尊重シ、出
來ルダケ實現致シタイト云フ勞働ニ關
スル原則ヲ定メタ譯デアリマシテ、國
際條約ヲ締結致シマシタ各國ノ勞働者
待遇ニ對スル理想ヲ具體的ニ示シタ性
質ノモノデアッタノデゴザイマス、ソコ
デ各國ハ出來ルダケ各自ノ國情ニ從ッ
テ、出來ルダケ各自ノ産業狀態ニ鑑ミ
マシテ、此理想ヲ實現シナケレバナラ
ナイト云フコトニナッテ居ルノデアリマ

スケレドモ、此九箇條ノ原則ハ是ハ御話ノ通り原則ヲ示シタノデアリマシテ、其適用ニ至ッテハ各國ガ其國情ニ依リ、産業ノ狀態ニ依テ、自由ニ定メ得ルコトニナッテ居ルノデアリマス、此九箇條ニ付テハ各國共必ズ之ニ拘束セラレネバナライヤウニ規定シヤウト云フ議論モ其當時有ッタノデアリマスケレドモ、ソレハ各國皆國情ノ相違ガアリ、産業狀態ノ相違モアルカラ、絶對的ニ拘束力ヲ有スルモノトスルト云フ事ニ付テハ、相當ニ異論ガアリマシタノデ、ソレレ各國ノ勞働ニ對スル理想ヲ示ス其適用ノ根本トナルベキ原則ヲ示スト云フ意味デ、其九箇條ガ設定セラレテ居ル譯デゴザイマス、ソレカラ農業勞働者ノコトニ付キマシテ御質問ガアリマシタガ、此解釋ニ付キマシテハ社會局長官カラ申上ゲル方ガ適當デアルト思ヒマス

○長岡政府委員 第二ノ藏園君ノ御質問デゴザイマスガ、是ハ私ノ記憶ニ依リマス、農業ニ從事スル者ノ團結ノ自由ヲ認メル、斯ウ云フ條約ガアリマス、併シ農業者ヲ以テ、若クハ小作人ヲ以テ勞働者ト認メルト云フヤウナコトハゴザイマセヌヤウニ記憶シテ居リマス、現ニ勞働代表ヲ選出シマス際ニモ、小作人組合ニハ只今ノ所選舉權ヲ與ヘテ居リマセヌ、之ニ對シテ聯盟ノ事務局ニ日本ノ或ル勞働者ノ代表者ノ方ガ抗議ヲ持出シタコトモアリマシタケレ

ドモ、之ニ對シマシテ勞働事務局長ノ「アルベルト・マ」氏ハ、小作人ガ勞働者デアアルヤ否ヤト云フ問題ニ付テマダ明瞭ナル解決ヲ與ヘテ居リマセヌ、ソレデ農業ニ關係ノアル者ノ團結ノ自由ハ認メル、之ニ對シテハ只今デモ小作人組合デ以テ認メテ居リマスシ、又小作人組合ニ關スル法制ハ農林省ニ於テ目下研究中デアリマシテ、次期議會ニ間ニ合フカドウカト云フコトニ付テハ、私カラ確ニハ申上ゲラレマセヌケレドモ、兎ニ角調査費ハ既ニ衆議院ニ於テ豫算案トシテ御協賛ニナッテ居ルノデアリマシテ、是ガ貴族院ヲ通過致シマスレバ小作人組合ニ關スル制度其他ノ問題ト併セテ農林省ニ於テ適當ナル案ヲ立テマシテ、近キ將來ニ於テ小作人組合法ト稱スル如キモノヲ議會ニ提案スル運ビニナルデアラウト思ヒマス、本法即チ勞働組合法ニ於テ勞働者ニ小作人ヲ含メナカッタ理由ハ、會議ノ初メニ於テ縷々大臣カラ御説明申上ゲタノデアリマスカラ省イテ置キマス

○藏園委員 國際條約ニ關スル問題ハ是位デ止メテ置キマス、大體ノ概念ヲ得レバソレデ宜シイコトニ致シマス、次ニ法案ニ這入リマシテ勞働組合法カラ御尋ヲ致シマス、組合法ノ第一條ニ於ケル質問應答ハ數次ニ及ンデ居リマシテ、私モ本會議ニ於テ質問モ致シ御答モ得テ居リマスカラ、再ビ繰返スコトハ致シマセヌ、唯本會議及本委員

會ニ於テ未ダドナタカラモ御質問ノナイ點ヲ努メテ御尋ヲシテ見タイト思ヒマス、本法ニ依レバ組合ノ組織ハ職業別即チ産業別ト云フコトニナッテ居リマスガ、此職業別組合ト云フモノハ兎角組合員ノ權利々益ノ擁護ニ急ニシテ、組合員外ノ組合ノ加入ヲ阻止セントスル弊害ノアルコトハ先進國ノ實例ニ徴シテ明瞭デアアルノデアリマス、然ルニ本法ニ依レバ第十三條ニ於キマシテ脱退ニ對シテハ不當條件ヲ定ムルコトヲ禁ジテアルニモ拘ラズ、加入ニ付テ何等ノ規定ガナイヤウニ思フノデアリマス、ソレデ組合ガ排外思想ニ走ッテ、少數ノ組合員ノ職業的權利擁護ノ爲ニ組合員ノ加入ヲ困難ナラシムル虞ガアル、之ニ對シテ何等カノ御考慮ガアルノデアリマスルカ、又ハ全ク是ハ放任シテ置カレルノデアリマスルカ、各國ノ例ニ依レバ斯様ナ排外思想ニ對スル對策ガアルヤウニ心得テ居リマスガ、之ニ對スル御考ハ如何デアリマス

○長岡政府委員 組合員ガ自分ノ好マザル者ヲ入會サセナイト云フコトニ付テハ、取締ル必要ガアルデハナイカト云フコトデゴザイマシタガ、是等ハ組合ノ自治ニ委シテ置クベキモノデアッテ、自ラ好マザル者、利害關係ノ相反スル者ヲ入レルトキハ組合ノ結束ヲ堅クスルコトガ出來ナイ、利害相反スルガ爲ニ組合ノ發達ヲ圖ルコトガ出來ナイ

ト云フヤウナ場合ニ、組合ノ自由ニ依リマシテ之ヲ斷ルト云フコトハ敢テ干渉スベキコトデハナカラウト心得テ居リマス、唯全然之ニ對シテ何等ノ規定ガナイト云フ御説デゴザイマシタガ、是ハ決シテ私ハ藏園君ノ言葉尻ヲ捉ヘルノデモ何デモゴザイマセヌガ、唯一ツ第十二條ノ但書ニ「雇傭者又ハ其利益ヲ代表スル者ハ此ノ限ニ在ラス」トシテ雇傭者又ハ其支配人ト云フヤウナモノハ其組合ニ加入セシメナイト云フコトニナッテ居リマス、只今ノ御質問トハ違ヒマスガ、加入ノ制限ニ付キマシタハ十二條ノ但書ガアルダケデゴザイマシテ、其他ハ組合ノ自由ニ委セルノガ適當デアラウト考ヘテ居リマス

○藏園委員 總テ開流シデ通りマスガ、次ニハ組合ニ加入スル資格ニ付テモウ一ツ御伺シタイノハ、十二歲以上ノ兒童ハ本組合ニ加入スル資格アリヤ否ヤト云フコトヲ御尋スル、工場法ニ依レバ十二歲未滿ノ兒童ハ工場ニ就職スルコトヲ得ズト云フ規定ガアリマス、此半面カラ見マス十二歲以上ノ兒童ハ組合ニ加入スル資格ヲ有スルモノノ如クニ見エマスルガ、果シテ然ルヤ、尙ホ婦人即チ有夫ノ婦人モ夫ノ許可ヲ要セズシテ此組合ニ加入スルコトヲ得ルカ否カ、要スルニ未成年者及有夫ノ婦ハ或點ニ於テ法律上ノ無能力者デアリマス、此組合ハ相當ナル負擔ヲ負フモノデアリマスガ、又身體上ニ付テノ

相當羈束ヲ受クルモノデアル、シテ見レバ此十二歳未満ノ未成年者及有夫ノ婦ハ果シテ加入スル資格ガアルカ否カ、此點ヲ御伺致シマス

○長岡政府委員 只今藏園君ノ御引用ニナリマシタ工場法ハ、現行法即チ舊法ノ規定デアリマシテ、此十二歳ト云フノハ原則トシテ十四歳ニ致スコトノ法律案ガ既ニ兩院ヲ通過シテ居リマシテ、只今樞密院ノ審議ノ繼續中デゴザイマスガ、恐ラクハ本法ノ施行即チ七月一日迄ニハ改正工場法及工場内ニ使用セラレル最低年齢法モ施行ニナルト考ヘテ居リマス、隨ヒマシテ原則トシテ十四歳以下ノ者ハ斯ル勞働ニ從事スルコトハ出來ナイヤウニナリマスカラ、其點ハ多少變ルトシテモ、併シソレハ十二歳十四歳ト云フ問題デアリマシテ、御質問ノ點ハ尙ホ十四歳トシテモ殘ル譯デアリマス、デ民法ノ規定ニ依レバ例ヘバ未成年者ニ付キマシテハ、其法定代理人ガ入會ヲ取消ス、此法律行為ヲ取消セバ勞働組合ニ加入シタト云フコトモ取消サレル、即チ民法ノ原則規定ニ依レバ、未成年者ノ能力ノ不十分デアル限り保護シタル規定ハ、勞働組合法ノ施行ニ拘ラズ矢張活キテ行ク、斯ウ云フ風ニ御解釋ヲ願ヒタイト思ヒマス、有夫ノ婦ニ付キマシテモ同ジヤウナ問題デ、サウ云フ解釋ニナルト考ヘマス

テモ差支ナイト云フ御意見ニナリマス

○長岡政府委員 矢張今ト同ジ解釋デ進ンデ差支ナイト考ヘマス

○藏園委員 次ニハ勞働組合ハ營利事業ヲ目的トスルコトハ出來ヌト云フノハ、是ハ屢承ルコトデアリマス、所ガ營利事業ト云フ意味ガ中ニハッキリセヌ場合ガ多イノデアル、自然營利ノ形ニナリ又自然營利ノ結果ヲ來スベキ場合ガ多イノデアリマス、例ヘテ申セバ勞働組合ガ住宅ヲ澤山拵ヘテ、サウシテ住宅ヲ勞働者ニ賃貸借スル場合、此賃貸行為ハ果シテ有效デアルカドウカ、又組合員ニ日用品其他ノ物ヲ販賣スル、斯ウ云フコトハ共濟組合タル共濟目的トスル場合ノ如キハ、稍之ニ包含スル場合ガアリマスケレドモ、殆ド此住宅組合ノ賃貸借ト云フヤウナモノハ、是ガ規模ガ擴大スルト云フト營利ノ結果ヲ來ス場合ガアルガ、是等ニ付テハ後デ苦情ヲ仰シヤルヤウナコトハナイカドウカ、ソレモ伺フテ置キマス

○長岡政府委員 只今御尋ノ問題ハ、其目的ガ繼續シテ利益ヲ得ル目的デ事業ヲヤツテ居ルカ、又ハ組合員ノ共同ノ利益ヲ増進スル爲ニ行ッテ居ルカト云フコトニ依テ分ケル外ハナイト思ヒマス、之ニ付キマシテハドウモサウ云フ例ガアリマスノデ、一例ヲ舉ゲレバ、現行府縣制若クハ市町村制ニ於キマシテハ、府縣市町村ノ公共團體ハ營利事業

ヲ爲スコトガ出來ナイコトニナッテ居リマスルガ、例ヘバ水道ヲ敷設スル、電氣ノ市營ヲ致スト云フヤウナ際ニ、其結果トシテ非常ナ利益ノ擧ガルコトモアリマス、大阪市ノ水道ノ如キハ私ノ記憶デハ二割以上ノ利益ヲ擧ゲテ居ルト思ヒマスガ、併ナガラ是ハ出發點ガ營利事業デナイ、市町村民若クハ府縣民ノ公共ノ利益ヲ増進スルト云フ目的

デ行ヒマス事業ガ、偶經營ガ旨ク行ッテ利益ガ擧ガタト云フコトデ、現在之ニ對シテ何等内務省ガ差止モ致シテ居ラナケレバ、營利事業ナリトシテ禁止モ致シテ居リマセヌ、ソレト同ジヤウニ勞働組合ノ事業ニ付キマシテモ、其出發點ガ繼續シテ利益ヲ得ル目的デヤッタモノデナクシテ、組合員ノ共同ノ利益ヲ増進スルト云フ目的デ致シマシタナラバ、住宅ノ貸付ニ致シマシテモ、或ハ機關雜誌ノ發行ニ致シマシテモ、出版物ノ頒布ニ致シマシテモ、偶其事ニ付テ金錢上ノ利益ガアリマシテモ、其事態ガ營利事業トシテ施行シタモノデナイ以上ハ、是ハ共同利益ノ増進トシテ認メテ差支ナイト考ヘテ居リマス

○藏園委員 次ニ御尋ネ致シタイコトハ、私ガ本會議デ御尋ネ致シマシタ政治運動ニ關スル問題、即チ組合ハ政治運動ヲ目的トスル事ハ出來ヌト云フ若概首相ノ御答辯デアッタ、然ラバ規約ニ政治運動ニ支出スルコトヲ得ル旨ノ規定ガ定メラレテアレバ、ソレハ其支出

ハ有效カト云フコトニ對シテ、有效ナリト云フ御答辯ヲ居タヤウニ思フ、是ハ將來勞働組合及勞働政治運動ノ段々盛ンニナッテ來ルニ從テ、非常ナ重大ナル意味ヲ持ッテ居ル問題デアリマス、現ニ本會議デ私が申シタ通りニ「オスボルン」事件ナゾト云フモノハ、全ク政府及資本金ガ勞働政治運動ニ壓迫ヲ加ヘタコトヨリ生ジタ問題デアル、ソレ

デ此「オスボルン」ト云フ鐵道従業員ガ、資本金ノ尻押ニ依テ組合ニ對シテ組合ナリト云フ訴訟ヲ起シテ、ソレガ遂ニ組合ノ敗訴ニ歸シテ、非常ニ勞働組合ニ大恐慌ヲ來シタ爲ニ、英國ニ於テハ千九百十三年ニ於テ此法ノ改正ヲシテ居ル、其改正ニ依ルト云フト、詰リ政治目的トスル事ハ出來ヌ、併ナガラ政治運動ヲヤツテモ規約ニ規定ガアレバ差支ナイト云フコト、併ナガラ政治運動ニ反對ノ組合員デ之ヲ割戻セト云フ規定ガ定メラレテ居ルノデアリマス、サウシマスレバ我國ニ於テハ反對ガアルニモ拘ラズ多數ヲ以テ組合規約ニ是ガ規定サレテ居レバ、其組合ノ資金ヲ政治運動ニ使用スルモ敢テ差支ナイト解釋シタイノデアリマスガ、其點ヲ矢張確メテ置キタイト思フ、是ハ將來最モ必要ナル點ダト思フノデ、改メテ此點ヲ確メテ置ク次第デアリマス

○長岡政府委員 勞働組合ト政治運動トノ事ハ、過日下ナタカノ御質問ニ對

シテ詳細申上ゲタヤウニ承知致シマス、重テハ重複シテ申上ゲマセヌガ、勞働組合ハ政社即チ政黨デアリマセヌカラ、治安警察法ノ規定ニ基ク政黨トシテノ届出ヲシテアル、所謂政社ト同ジヤウニ繼續シテ政治上ノ運動ヲ行フコトハ出來ナイト考ヘテ居リマス、併ナガラ其際モ申上ゲマシタヤウニ、政黨ニアラザルモノデアッテモ、其他ノ結社デモ斷片的ニ其結社自體ノ目的ヲ達スル爲ニ、個々ノ政治運動ヲスルト云フコトハ今日公認サレテ居ル狀態デゴザイマスカラ、勞働組合自體ノ目的ヲ達シマスル爲ニ、個々ノ政治運動ヲ致シ、議會ニ對シテ請願ヲ致ストカ或ハ或ル法律案ノ通過ノ運動ヲ致スト云フヤウナ斷片的ノ政治運動ヲ致ストハ、是ハ公認スルノ外ハナイト心得テ居ル、尙ホ此基金ノ設置處分デゴザイマスルガ、是ハ例ヘバ他ニ勞働黨ト云フヤウナ政黨ガ出來マシテ、或組合ニ於キマシテ、其組合ノ基金ヲ其勞働黨ニ寄附ヲスル、處分ヲスルト云フヤウナコトヲ此十條ノ規定ニ依テ決議致シマシタナラバ、ソレハ差支ナイト考ヘマヌガ、此基金ヲ處分スル方法ニ付キマシテモ、尙ホ前段ニ私ガ御答申上ゲマシタ意味ハ殘ルノデアリマス、其組合ガ綱領ニ於テ政黨ト同ジヤウナコトヲ掲ゲ尙ホ繼續シテ政治上ノ目的ヲ達スル爲ニ運動ヲ致ス、即チ今日ノ政黨ト同ジヤウニ行動ヲ致シ、同ジヤウニ金ヲ

使フト云フコトハ本法ノ認メザル所デアル、此點ハ先日モ御答致シマシタガ、要スルニ治安警察法ノ政黨ト同ジヤウナ行爲ハ出來ナイ、斷片的ニ政治上ノ運動ヲスルト云フコトハ是ハ默許スル外ハナイ、斯様ニ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

○藏園委員 次ニハ法人ニ關スル點ニ付テ御尋ヲ致シマス、本法ニ依レバ即チ強制法人主義ヲ採ッテ居リマスルカラ、組合法ノ勞働組合タラント欲スルニハ、必ズ法人ニナル、斯ウ云フ關係ニナッテ居ル、ソレカラ組合法ニ依ラザル勞働組合ト云フモノヲ容認シテアルノデアリマスルカラ、要スルニ此法案施行ノ後ニ於テハ勞働組合ガ二ツニナル、斯ウ云フマア譯ニナル、所ガ之ヲ復活致シマシテ、社會局案ニ假ニ之ヲ復活致シテ考ヘテ見ルト、社會局案ニ付テハ勞働組合ハ法人トスルモセザルモ、一ニ組合ノ自由ニ一任シテ居ル、サウシテ見マスルト、組合法ノ勞働組合ト云フモノガ、法人タル勞働組合ト法人ニアラザル勞働組合ト、ソレカラ組合法以外ノ勞働組合ト、斯ウ三ツニナルコトヲ認メナケレバナラヌ、此際ニ於テ二ツデモ宜シイガ、是ハ三ツニナル、社會局案ニ假ニ復活ヲスルモノト假定シテ見ルト云フト三ツニナリマス、勞働組合ノ種類ガ三ツニナル、此場合ニ於テ政府ハ此三種ノ勞働組合ニ對シテ直感スルコトノ出來ル名稱ヲ強ユ

ラシメルコトニナッテ居リマス、苟モ勞働組合ノ實質ヲ備ヘタ團體デアリマスレバ、届出ヲ強制シテ居リマス、届出ヲシナイモノニハ所謂ヲ加ヘマシテ、而モソレハ繰返シ繰返シ所謂出來ルコトニナッテ居リマスルカラ、社會局私案ニ依リマスルコト云フト、組合法以外ノ組合ト云フモノハ存在致サナイノデアリマス、ソレデ其法人ニナルトナラナイトハ自由ニシテアルノデアリマス、例ヘテ言ヒマスト社會局私案ニ依レバ、菓子モ置イテアルシ酒モ置イテアル、必ズ其ドツチカラ食フカ飲ムカシナケレバナラヌト云フコトニナッテ居リマスルガ、此政府提出ノ法律案デハ、依ルト依ラザルトハ自由デアル、菓子ノ好キナ者ハ菓子ヲ食ッテ宜シイ、其菓子ノ味ノ善イト惡イトハ是ハ料理人ノ腕前ニ依リマセウガ、ソレハ人ノ嗜好ニ依ルコトデ、菓子ノ好キナ者ハ菓子ヲ食フ、酒ノ好キナ者ハ必シモ菓子ヲ食ハナクテモ宜シイ、即チ此法律ニ依テモ依ラナクテモ宜シイ、隨テ法人ニナルトナラヌトハ自由デアル、所ガ社會局私案ハ必ズ法ニ依ラナケレバナラヌ、法以外ノ勞働組合ト云フモノハ存在致シマセヌ、此方ハ法人ニナルナラナイハ自由デ、此法律案ニ依ルトソレハ這入ッテモ這入ラナクテモ宜シイ、其代リ這入ルモノハ法人デナケレバナラヌト云フコトニナリマシテ、其間ニ觀念上大シタ相違ハナイノデアリマ

シテ詳細申上ゲタヤウニ承知致シマス、重テハ重複シテ申上ゲマセヌガ、勞働組合ハ政社即チ政黨デアリマセヌカラ、治安警察法ノ規定ニ基ク政黨トシテノ届出ヲシテアル、所謂政社ト同ジヤウニ繼續シテ政治上ノ運動ヲ行フコトハ出來ナイト考ヘテ居リマス、併ナガラ其際モ申上ゲマシタヤウニ、政黨ニアラザルモノデアッテモ、其他ノ結社デモ斷片的ニ其結社自體ノ目的ヲ達スル爲ニ、個々ノ政治運動ヲスルト云フコトハ今日公認サレテ居ル狀態デゴザイマスカラ、勞働組合自體ノ目的ヲ達シマスル爲ニ、個々ノ政治運動ヲ致シ、議會ニ對シテ請願ヲ致ストカ或ハ或ル法律案ノ通過ノ運動ヲ致スト云フヤウナ斷片的ノ政治運動ヲ致ストハ、是ハ公認スルノ外ハナイト心得テ居ル、尙ホ此基金ノ設置處分デゴザイマスルガ、是ハ例ヘバ他ニ勞働黨ト云フヤウナ政黨ガ出來マシテ、或組合ニ於キマシテ、其組合ノ基金ヲ其勞働黨ニ寄附ヲスル、處分ヲスルト云フヤウナコトヲ此十條ノ規定ニ依テ決議致シマシタナラバ、ソレハ差支ナイト考ヘマヌガ、此基金ヲ處分スル方法ニ付キマシテモ、尙ホ前段ニ私ガ御答申上ゲマシタ意味ハ殘ルノデアリマス、其組合ガ綱領ニ於テ政黨ト同ジヤウナコトヲ掲ゲ尙ホ繼續シテ政治上ノ目的ヲ達スル爲ニ運動ヲ致ス、即チ今日ノ政黨ト同ジヤウニ行動ヲ致シ、同ジヤウニ金ヲ

使フト云フコトハ本法ノ認メザル所デアル、此點ハ先日モ御答致シマシタガ、要スルニ治安警察法ノ政黨ト同ジヤウナ行爲ハ出來ナイ、斷片的ニ政治上ノ運動ヲスルト云フコトハ是ハ默許スル外ハナイ、斯様ニ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

○藏園委員 次ニハ法人ニ關スル點ニ付テ御尋ヲ致シマス、本法ニ依レバ即チ強制法人主義ヲ採ッテ居リマスルカラ、組合法ノ勞働組合タラント欲スルニハ、必ズ法人ニナル、斯ウ云フ關係ニナッテ居ル、ソレカラ組合法ニ依ラザル勞働組合ト云フモノヲ容認シテアルノデアリマスルカラ、要スルニ此法案施行ノ後ニ於テハ勞働組合ガ二ツニナル、斯ウ云フマア譯ニナル、所ガ之ヲ復活致シマシテ、社會局案ニ假ニ之ヲ復活致シテ考ヘテ見ルト、社會局案ニ付テハ勞働組合ハ法人トスルモセザルモ、一ニ組合ノ自由ニ一任シテ居ル、サウシテ見マスルト、組合法ノ勞働組合ト云フモノガ、法人タル勞働組合ト法人ニアラザル勞働組合ト、ソレカラ組合法以外ノ勞働組合ト、斯ウ三ツニナルコトヲ認メナケレバナラヌ、此際ニ於テ二ツデモ宜シイガ、是ハ三ツニナル、社會局案ニ假ニ復活ヲスルモノト假定シテ見ルト云フト三ツニナリマス、勞働組合ノ種類ガ三ツニナル、此場合ニ於テ政府ハ此三種ノ勞働組合ニ對シテ直感スルコトノ出來ル名稱ヲ強ユ

ラシメルコトニナッテ居リマス、苟モ勞働組合ノ實質ヲ備ヘタ團體デアリマスレバ、届出ヲ強制シテ居リマス、届出ヲシナイモノニハ所謂ヲ加ヘマシテ、而モソレハ繰返シ繰返シ所謂出來ルコトニナッテ居リマスルカラ、社會局私案ニ依リマスルコト云フト、組合法以外ノ組合ト云フモノハ存在致サナイノデアリマス、ソレデ其法人ニナルトナラナイトハ自由ニシテアルノデアリマス、例ヘテ言ヒマスト社會局私案ニ依レバ、菓子モ置イテアルシ酒モ置イテアル、必ズ其ドツチカラ食フカ飲ムカシナケレバナラヌト云フコトニナッテ居リマスルガ、此政府提出ノ法律案デハ、依ルト依ラザルトハ自由デアル、菓子ノ好キナ者ハ菓子ヲ食ッテ宜シイ、其菓子ノ味ノ善イト惡イトハ是ハ料理人ノ腕前ニ依リマセウガ、ソレハ人ノ嗜好ニ依ルコトデ、菓子ノ好キナ者ハ菓子ヲ食フ、酒ノ好キナ者ハ必シモ菓子ヲ食ハナクテモ宜シイ、即チ此法律ニ依テモ依ラナクテモ宜シイ、隨テ法人ニナルトナラヌトハ自由デアル、所ガ社會局私案ハ必ズ法ニ依ラナケレバナラヌ、法以外ノ勞働組合ト云フモノハ存在致シマセヌ、此方ハ法人ニナルナラナイハ自由デ、此法律案ニ依ルトソレハ這入ッテモ這入ラナクテモ宜シイ、其代リ這入ルモノハ法人デナケレバナラヌト云フコトニナリマシテ、其間ニ觀念上大シタ相違ハナイノデアリマ

シテ詳細申上ゲタヤウニ承知致シマス、重テハ重複シテ申上ゲマセヌガ、勞働組合ハ政社即チ政黨デアリマセヌカラ、治安警察法ノ規定ニ基ク政黨トシテノ届出ヲシテアル、所謂政社ト同ジヤウニ繼續シテ政治上ノ運動ヲ行フコトハ出來ナイト考ヘテ居リマス、併ナガラ其際モ申上ゲマシタヤウニ、政黨ニアラザルモノデアッテモ、其他ノ結社デモ斷片的ニ其結社自體ノ目的ヲ達スル爲ニ、個々ノ政治運動ヲスルト云フコトハ今日公認サレテ居ル狀態デゴザイマスカラ、勞働組合自體ノ目的ヲ達シマスル爲ニ、個々ノ政治運動ヲ致シ、議會ニ對シテ請願ヲ致ストカ或ハ或ル法律案ノ通過ノ運動ヲ致スト云フヤウナ斷片的ノ政治運動ヲ致ストハ、是ハ公認スルノ外ハナイト心得テ居ル、尙ホ此基金ノ設置處分デゴザイマスルガ、是ハ例ヘバ他ニ勞働黨ト云フヤウナ政黨ガ出來マシテ、或組合ニ於キマシテ、其組合ノ基金ヲ其勞働黨ニ寄附ヲスル、處分ヲスルト云フヤウナコトヲ此十條ノ規定ニ依テ決議致シマシタナラバ、ソレハ差支ナイト考ヘマヌガ、此基金ヲ處分スル方法ニ付キマシテモ、尙ホ前段ニ私ガ御答申上ゲマシタ意味ハ殘ルノデアリマス、其組合ガ綱領ニ於テ政黨ト同ジヤウナコトヲ掲ゲ尙ホ繼續シテ政治上ノ目的ヲ達スル爲ニ運動ヲ致ス、即チ今日ノ政黨ト同ジヤウニ行動ヲ致シ、同ジヤウニ金ヲ

使フト云フコトハ本法ノ認メザル所デアル、此點ハ先日モ御答致シマシタガ、要スルニ治安警察法ノ政黨ト同ジヤウナ行爲ハ出來ナイ、斷片的ニ政治上ノ運動ヲスルト云フコトハ是ハ默許スル外ハナイ、斯様ニ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

○藏園委員 次ニハ法人ニ關スル點ニ付テ御尋ヲ致シマス、本法ニ依レバ即チ強制法人主義ヲ採ッテ居リマスルカラ、組合法ノ勞働組合タラント欲スルニハ、必ズ法人ニナル、斯ウ云フ關係ニナッテ居ル、ソレカラ組合法ニ依ラザル勞働組合ト云フモノヲ容認シテアルノデアリマスルカラ、要スルニ此法案施行ノ後ニ於テハ勞働組合ガ二ツニナル、斯ウ云フマア譯ニナル、所ガ之ヲ復活致シマシテ、社會局案ニ假ニ之ヲ復活致シテ考ヘテ見ルト、社會局案ニ付テハ勞働組合ハ法人トスルモセザルモ、一ニ組合ノ自由ニ一任シテ居ル、サウシテ見マスルト、組合法ノ勞働組合ト云フモノガ、法人タル勞働組合ト法人ニアラザル勞働組合ト、ソレカラ組合法以外ノ勞働組合ト、斯ウ三ツニナルコトヲ認メナケレバナラヌ、此際ニ於テ二ツデモ宜シイガ、是ハ三ツニナル、社會局案ニ假ニ復活ヲスルモノト假定シテ見ルト云フト三ツニナリマス、勞働組合ノ種類ガ三ツニナル、此場合ニ於テ政府ハ此三種ノ勞働組合ニ對シテ直感スルコトノ出來ル名稱ヲ強ユ

ラシメルコトニナッテ居リマス、苟モ勞働組合ノ實質ヲ備ヘタ團體デアリマスレバ、届出ヲ強制シテ居リマス、届出ヲシナイモノニハ所謂ヲ加ヘマシテ、而モソレハ繰返シ繰返シ所謂出來ルコトニナッテ居リマスルカラ、社會局私案ニ依リマスルコト云フト、組合法以外ノ組合ト云フモノハ存在致サナイノデアリマス、ソレデ其法人ニナルトナラナイトハ自由ニシテアルノデアリマス、例ヘテ言ヒマスト社會局私案ニ依レバ、菓子モ置イテアルシ酒モ置イテアル、必ズ其ドツチカラ食フカ飲ムカシナケレバナラヌト云フコトニナッテ居リマスルガ、此政府提出ノ法律案デハ、依ルト依ラザルトハ自由デアル、菓子ノ好キナ者ハ菓子ヲ食ッテ宜シイ、其菓子ノ味ノ善イト惡イトハ是ハ料理人ノ腕前ニ依リマセウガ、ソレハ人ノ嗜好ニ依ルコトデ、菓子ノ好キナ者ハ菓子ヲ食フ、酒ノ好キナ者ハ必シモ菓子ヲ食ハナクテモ宜シイ、即チ此法律ニ依テモ依ラナクテモ宜シイ、隨テ法人ニナルトナラヌトハ自由デアル、所ガ社會局私案ハ必ズ法ニ依ラナケレバナラヌ、法以外ノ勞働組合ト云フモノハ存在致シマセヌ、此方ハ法人ニナルナラナイハ自由デ、此法律案ニ依ルトソレハ這入ッテモ這入ラナクテモ宜シイ、其代リ這入ルモノハ法人デナケレバナラヌト云フコトニナリマシテ、其間ニ觀念上大シタ相違ハナイノデアリマ

ス、ソレハ前段ノ御尋ニ對スル辯明デアリマスガ、名稱ニ付キマシテハ實ハサウ云フ説モ政府部内ニアリマシタ、正直ナコトヲ申シマスレバ——併シ結局此名稱ノ如キハ自由ニシテ置イタ方が宜カラウト云フコトデアリマシテ、此法律ニ依ルモノハ勞働組合ト謂フベシ、法律ニ依ラザルモノハ勞働組合ト云フ名稱ヲ用ヒテハイカヌト云フ所ノ規定ハ一切置カナカッタ次第デアリマス、名稱ニ付キマシテハ只今デモ何等強制的ノ方法ヲ執ルト云フ者ハアリマセヌ

○藏園委員 成程社會局案ニ依レバニツニナル譯デス、サウスレバ此二ツニ付テノコト、三ツノコトハ同ジ事デス、ソレハ例ニ過ギナイ譯デアリマスカラ

——次ハ此爭議ニ關スル損害賠償ノ問題ニ付テ一寸御尋ヲ致シマスガ、爭議ニ關スル損害賠償ノ問題ハ、是ハ頗ル重要ナル問題デアリマス、ソコデ此事ハ第十五條ニ規定サレテ居ル、第十五條ノ前段ハ是ハ一般法人ニ關スル規定ヲ其儘持ッテ來テ居ルノデアル、民法ノ第四十四條ノ前段ヲ其儘抜イテ來テ居ル「勞働組合ハ理事其ノ他ノ代理人カ其ノ職務ヲ行フニ付他人ニ生セシメタル損害ヲ賠償スル責任ニ任ス」ト斯ウ云フ民法ノ一般規定ヲ準用シテ來テ居ル、但書以下ガ即チ勞働爭議ニ關スル所ノ之ガ特別規定デアリマス、ソコデ此勞働爭議ニ關スル責任觀念ニ付キマシテハ「組合ノ理事其ノ他ノ代理人カ

勞働條件ニ關シテ組合員ヲシテ協同行爲ヲ爲サシメ又ハ組合員ノ行爲ニ制限ヲ加ヘタルニ因テ雇傭者ニ生セシメタル雇傭關係上ノ損害ニ付テハ此ノ限リニ在ラス」即チ無責任デアル、責任ガナイ、斯ウ云フ規定デアリマス、ソレデ之ニ依リマスと云フト、勞働條件ニ關スル場合ト云フコトニ、此無責任規定ヲ極ク小サク局限サレテ居ル、所ガ此勞働爭議ニ關スル問題ハ、勞働條件ニ關スル場合ノミヲ勞働爭議ト申シマサルカ、若クハ勞働條件ニ關セザル感情上、其他ノ是以外ノ詰リ爭議ノアルコトハ是ハモウ洵ニ世間ニ多イノデアツテ、寧ロ勞働條件ノ維持改善ニ關スルモノヨリハ、其以外ノ爭議ガ多カラウト思フノデアリマス、シテ見マスレバ此場合ニ於テ、此損害ノ賠償ノ無責任規定ヲ極ク狹隘ニ御解釋ニナツタト云フコトハ、爭議ノ範圍ト一致セザル嫌ガアリマスルガ、之ニ對スル政府ノ御所見ヲ伺ヒマス

○長岡政府委員 十五條ノ但書ノ御質問デゴザイマシタガ、此除外規定ハ要スルニ同盟罷業ノ場合ヲ豫想シテ文字ニ現ハシタノデゴザイマシタ、勞働組合ト雖モ同盟罷業以外ノ場合、即チ普通ノ商取引デアリマストカ、其他ノ問題ニ付キマシテ理事其他ノ代人ガ職務ヲ行フニ付キ他人ニ生セシメタル損害ニ付テハ、民法第四十四條ノ原則ニ從フノガ當然デアツテ、勞働組合タルガ故ニ

民法第四十四條ノ範圍外ニ立ツト云フ特權ヲ持タセル譯ニハ行カヌト云フ主義ニ外ナラヌノデゴザイマス、併ナガラ同盟罷業ニ付テハ、此第四十四條ノ規定ニ依リマスと云フト、忽チ組合ノ基金ト云フモノハ其爲ニ取ラレテシマフト云フ結果ニナリマスルカラ、同盟罷業ノ場合ダケノ免責規定ヲ置キマシタ、此勞働條件ト云フ文字ハ極メテ廣イ意味ニ御解釋ヲ願ヒタイノデアリマシテ、單ニ勞働時間ノ短縮、勞働賃金ノ値上ト云フダケニ限ラレテ居リマセヌ、只今マデ吾々ノ存ジテ居ル知識ヲ以テ申上ゲマスレバ、我國ニ起リマシタ同盟罷業ト云フモノハ、殆ド全部勞働條件ニ關係致シテ居リマシテ、獨逸ノ「カッブ」革命ノ際ニ出來マシタヤウナ政治上ノ目的ヲ持ッタ同盟罷業ト云フモノハマダ日本デハゴザイマセヌ、其同盟罷業ガ勞働條件ニ關スル限り、其損害ニ付キマシテハ組合トシテ損害賠償ノ責任ニ任ジナイ、斯ウ云フ意味ニ御解釋ヲ願ヒタイノデアリマス

○藏園委員 御説明ノ程ハ諒トシマスガ、勞働條件ト云フ字ト、ソレカラ罷工ト云フ事トノ範圍ハ、大變ニ相違ヲ致シテ居リマス、ダカラシテ御説明ノ如ク之ヲ罷業ニ關スル無責任規定デアルトスレバ、此前文ノ勞働條件ニ關スル事ダケハ削ッテ敢テ御異議ノナイモノト考ヘテ置キマス、ソレカラ次ニハ矢張ソレニ關聯致シマシテ、是ハ組合

ノ理事及代理人ガ同盟罷工ヲサセタトキニ、組合ガ其責任ヲ負ハヌト云フ是ハ特別ノ規定デアリマス、サウシマスレバ斯ウ云フ問題ガ殘ッテ居ル、歐米ニモ其論ガアツテ、マダ決著ガ付カヌヤウニ思ウテ居リマスガ、組合ハ其責任ヲ負ハヌ、併ナガラ其理事及其他代理人ト云フモノハ、個人トシテノ責任ハ別段ノ問題デアルト學者ハ之ヲ論ジテ居リマス、サウシマスと云フト勞働組合ハ權利ガアルカラ無責任規定ニナルケレドモ、組合ノ理事及其他ノ代理人ト云フモノハ、個人トシテノ責任ハ免レヌト云フ結果ヲ來スト云フコトニナルト、是ハ甚ダシキ不合理ナ結果ヲ見ルノデアリマス、併ナガラ法律解釋トシテハソレハ十分ニ考慮 ベキ餘地ガ殘ッテ居リマス、之ニ對スル政府ノ御意見ヲ伺ッテ置キマス

○長岡政府委員 只今政府ハ同意スルモノト認メルト云フ御斷言デゴザイマシタガ、之ハ御解釋ハ御自由デゴザイマスルガ、私トシテハ少クモ事務官タル政府委員ト致シマシテハ、政府ガドレヲ同意スルトカ云ウヤウナコトヲ申上ゲル程ノ自由ナ位置ニゴザイマセヌノデ、ソレデ實ハ清瀬君ニ此間申上ゲタコトモ、能ク——後デ考ヘテ、兎ニ角身分不相應ナ大言壯語ヲ致シタト云フヤウナコトヲ考ヘマシテ、本日取消シタ次第デゴザイマスカラ、私カラハ少クモ同意不同意ト云フコトハ申上ゲテ居

ラスト云フ事ダケヲ御承知ヲ願フテ置キマス、尙ホ此不法行為ニ關スル御質問デゴザイマシタガ、是ハ實ハ民法ノ問題ト致シマシテ、餘程是ハ解釋ガ分レテ居ル問題デ、此事ハ寧ろ藏園君ノ方ガ御専門デゴザイマスルガ、要スルニ單純ナ債務ノ不履行ト云フモノガ不法行為ニナラヌト云フコトハ、是ハ大體通説ノヤウデアリマス、併シ他人ノ債務ヲ免レシムル目的ヲ以テ勸誘スルト云フコトハ、今日ノ不法行為ノ大體通則カラ云ヘバ這入ルヤウニ思ハレル、隨ヒマシテ組合員ト致シマシテハ、單純ナ債務ノ不履行ノ爲ノ不法行為ハ責任ヲ負ヒマセヌガ、雇主ニ對シテハ債務不履行ニ依ル損害賠償ノ責任ハ負ハセナケレバナラヌ、是ハ本法ノ有ル無シニ拘ラズ、今デモ將來デモ同ジト思ヒマス、ソレカラ理事其他ノ代理人ガ雇傭契約ノ義務ヲ免レシムル目的デ勸誘シタト云フコトモ、是ハ今日ノ不法行為ノ通則カラ云ヒマス、ドウモ不法行為ニナルト云フコトガ穩當ノヤウデアリマス、隨ヒマシテ但書ガナイト理事其他ノ代理人ガ同盟罷業ヲ勸誘シタ場合ニ、民法四十四條ノ原則ニ依テ、組合自體ガ賠償ノ責任ヲ負ハナケレバナラヌ、ソレハ同盟罷業及勞働組合ノ本來ノ性質カラ云フテ穩カデナイト云フコトデ、此十五條ノ但書ヲ設ケマシテ、組合トシテ法人トシテノ損害賠償ノ責任ニ任ジナイト云フコトヲ明カニ致シマシタガ、

理事其他ノ代理人ガ個人的ニ同盟罷業ヲ勸誘シタ爲ニ生ジタ損害ヲ賠償スル責任ガアルカ否カト云フコトハ、是ハ責任ガアルト云フ方ニ申上ゲタ方ガ、今日ノ不法行為ノ通則ニ當嵌ルダラウト存ジマス、併ナガラソレハ飽マデ民法ノ問題トシテ御研究ヲ願ヒタイノデアリマシテ、勞働組合法ノ十五條ノ有無ニ拘ラズ、十五條ハ法人ノ免責規定デゴザイマスカラ、十五條ノ免責規定ガ有ラウガ無カラウガ、勞働組合ト云フモノガ有ラウガ無カラウガ、同盟罷業ニ對シテ他人ヲ勸誘シテ同盟罷業ヲ行ヒ、之ニ依テ生ジタ雇主ノ損害ヲ賠償スル責任ガアルカドウカト云フコトハ、是ハ勞働組合法ニ關係ノ無イ民法ノ問題トシテ全ク別ノ問題トシテ殘ル、而シテ今日デハ責任ガアルト解釋スルノガ通説デアアルト存ジマス

○藏園委員 民法問題ニ移ッテ別ニ考ヘルト云フコトデアアルガ、ソレヲシタクナイカラ今御尋シタノデ、此問題ノ解決ガ是デ付クモノナラバ、此問題デ解決ヲ付ケタイト云フノガ私ノ希望デス、次ニ只今陸軍大臣ガ御出ニナリマシタカラ、陸軍ノ方ニ移リタイト思ヒマスルガ、簡單ニモウニツバカリ殘ッテ居リマスカラ、ソレヲ御尋ネ致シマス、第十六條ニ依ルト、業務若クハ財産ノ狀況又ハ組合ノ員數ニ關スル報告ヲ行政官廳ガ徵スルコトガ出來ル規定ニナツテ居リマス、是ハ此種ノ多クノ組合、其

他會社ニ付テモ斯ウ云フ規定ハアリマス、他ニ類ガナイコトデハナイ、併ナガラ勞働組合ノ如キハ、其業務及資産狀況、組合員ノ員數ナド、云フモノハ、政府ニハ必要ガナイ筈デアアル、此規定ガアル爲ニ、却テ組合ハ政府ノ魔ノ手ヲ恐レテ居ル、政府ガ常ニ此業務ニ干與スルノ端ヲ啓クノモ、此規定カラ來ルシ、又財産ノ狀況竝ニ資金ガドノ位有ルダラウカ、此分デハ迎モ同盟罷業ハヤリ得ヌトカ、同盟罷業ノ繼續ハ覺束ナイト云フヤウナコトデ、現ニ「ロイドジョー」ガ三角同盟ニ對スル對策ヲ講ジタトキニモ、組合ノ資金調査ヲ一番先ニシテ居ル、ソレデ此資金調査ヲスル、是ハ端ヲ啓クモノデアリマス、又組合ノ員數、コンナモノハ何デ必要ガアリマスカ、是ハ寧ろ利益ハナクシテ必要ハナクシテ、却テ組合ヲシテ行政官廳ノ干渉ノ伏線ヲ茲ニ設ケテアルモノデアアルト、却テ斯ウ云フ感ヲ抱カシメテ、何等益ノナイ規定デアアルト思ヒマスルガ、之ニ對スル政府ノ御考ハ如何デスカ

○長岡政府委員 是ハ唯監督官廳トシテ、組合ノ狀況ヲ知ッテ置クト云フダケノコトデアリマシテ、殊ニ員數ノ如キハ、勞働代表ノ選出ノ際ハ、今日デモ事實上届出ヲサセテ居リマス、政府ト云フモノガ、常ニ勞働者ヲ壓迫シ、雇傭者ノ手先トナツテ勞働者ヲ虐メル、斯ウ云フ出發點カラ見マスルト、只今御話ノヤウナ危險ガアリマスルケレドモ、吾ハ自分ガ役人ヲシテ居ルノデ、臭イ者身知ラズカモ知レナイガ——我田引水カ知レマセヌガ、政府ト云フモノハサウ云フモノデハナイ、行政上ノ秘密ト云フモノハ、漏洩シテハ相成ラヌモノデアアルト、斯ウ云フ風ニ今日マデ考ヘ來ッテ居リマスノデ、同盟罷業ノ際ニ、今組合ノ基金ガ幾ラ有ルト云フヤウナコトヲ、事業家側ニ通報シテ應援スルト云フヤウナコトハ、如何ナル亂暴ナ官吏ガ出マシテモ、サウ云フコトハ先ヅナイモノト云フヤウニ御安心ヲ願ヒタイ

○藏園委員 其點ハ御説ノ通り安心ヲ致シマス、併ナガラ是ハ漏洩ハナイコトヲ私ハ信ジマセウ、唯政府ガ、此組合ノ罷工ニ關スル政府ノ對策ト云フモノガ、常ニ此資金ノ多少カラ來テ居ルノデアアル、組合ガ若シ茲ニ罷工ヲ起シテ居ル、其罷工ヲ繼續スルニハ、ドウシテモ組合ハ應分ノ資金ヲ持ッテ居ナケレバナラヌノデアアルカラ、資金ナキ組合ハ必ズ自分ノ權能タル所ノ罷工ヲ繼續スルコトハ出來ヌコトハ、是ハモウ論ナシ、ソコデハ、此組合ガ資金ヲ調達シテ、サウシテ、其勞働組合爭議及組合ヲ操縦スル政府ノ干渉、政府ノ暗キ魔ノ手ノ伸ビルノハ何時デモ此處カラ來ル、ソレヲ私ハ心配スルノデアリマス、資本金ト共通スルトカ、何トカ云フヤウナコトハナイコトヲ信ジマス、又

信ゼンコトヲ欲スルノデアリマス——

陸軍大臣ニ對シテノ質問ハ、是ハ陸海軍共通デス、陸軍大臣ガ幸ニ御出席下サツタカラ、陸軍大臣ニ御尋シマスガ、陸軍大臣ハ御承知デアリマセウガ、勞働組合法ノ第三十三條ニ「陸海軍々々軍屬ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働組合ノ組合員ト爲ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得」ト云フ規定ガアルノデス、ソレデ爰ニ所謂軍人軍屬ト云フコトハ、ドウ云フモノヲ謂フノデアルカ、先ヅ御尋ヲ致シタイ、ソレカラ軍人軍屬中ニ所謂勞働者ト云フモノモ有ルノデス、ソレデ勞働者タル軍人軍屬ニ關スル者ダケニ對シテ謂フノデアアルカ、又一般軍人軍屬ニ對スル規定デアアルカ、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ、斯ウナリマス、勞働者デナイ軍人軍屬ニハ、必要ガナイヤウニ思フト云フノデアアル、所ガサウ行カヌコトハ、陸海軍ノ諸君ガ、此第一條ノ組合組織ノ際ニ於テ、職業別組合ヲ盛ニ御主張ニナッタラシイ風聞ヲ承ツテ居リマスガ、其結果ト致シマシテ、此內務省案ト云フモノハ、一般勞働者ト斯ウ云フ譯デアッタ、所ガ色々內部ニ論ガアリ、陸海軍ナドデ特ニ御主張ニナッタト云フヤウナ話デ、第一條ハ職業別ニナツテ居ル、職業別ニ組合ハ組織スベキモノダト斯ウナツテ居ルニ拘ラズ、之ニ嫌ラヌト云フノ第十二條ヲ置イテ、サウシテ軍人デアラウガ、軍屬デアラウガ、第十二條ノ第三項ニ依ル

ト云フト、皆組合員ニナルコトガ出來ル仕掛ニナツテ居ル、此所ガ丁度、貴方ガタガ軍人トシテ第一條デ以テ勝利ヲ得タト思ウテ油斷ヲシテキラッシャッタカモ知レマセヌガ、前門ノ虎ヲ防イデ後門カラ狼ヲ進メラレテ居ル、第十二條ト云フモノガ出來テ居ル、之ニ依テ見マスルト、勞働者ハ軍人デアラウガ、軍屬デアラウガ、何デアラウガ、一度勞働組合ノ總會ニ於テ、組合ニスルト云フ決定ガアレバ、ソレヲ承諾スルコトガ出來ル規定デアアル、ドンナ軍人デモ組合員ニナルコトニナツテ居リマセ、此處ハ御考ニナツテ居ルカ、ナツテ居ラヌカ分ラヌガ、斯ウ云フ仕掛ニナツテ居ル、內務省ガズルイ仕掛ニシタモノダト思フ、陸海軍ハ此畏ニ懼ツテ居ヤシナイカト思フ、ソコデ私ガ承リタイノハ、此勅令ノ定ムル所ニ依テ、勞働組合ノ組合員トナルコトヲ禁ズル又ハ制限スル、是ハ戰時若クハ非常時ニ適用スルダケデアリマスガ、又ハ平時ニモ之ヲ適用スルコトニ考ヘテ宜シウゴザイマスガ、斯ウ云フコトヲ先ヅ一ツ御説明ヲ願ツテ置キタイ

○宇垣國務大臣 軍人軍屬ト云フモノハ、ドウ云フ性質ノモノデアアルカト云フノガ第一ノ御尋ノヤウデアリマシタ、軍人トハ御承知ノ通り將校カラ下士、兵卒ニ至ルマデノ者、是ガ軍人、軍屬ト申シマスノハ、其今申上ゲタ軍人以外ノ者デ、サウシテ宣誓ヲシテ軍務ニ服

シテ居ル者ガ軍屬ト斯ウナツテ居リマス、隨テ此處ニ第三十三條ニ掲ゲテアル軍人軍屬ト云フノハ、勞働勤務ニ服シテ居ル者ダケト云フ意味デナク、總テノ軍人軍屬ヲ包含シテ居ル譯デアリマス、ソレカラ第二ノ御尋ノ第十二條ト第一條トノ關係ノ御尋ハドウモ少シ私ニハ諒解シ兼ネタノデアリマスガ、モウ一度一ツ……

○藏園委員 一般ニ對スル軍人軍屬ニ關スル規定ハ、自然此十二條ガ出來タ爲ニ是ガ必要カラ起ツテ來タモノデス、ソレガ所謂陸海軍ノ人達ガ餘リ第一條デ以テ議論ヲ爲サツタカラ、第一條デ一般ノ勞働者ヲ入レテ居ルト云フコトニナレバ、勞働者タル軍人ダケデ濟ンダノデアリマス、所ガ職業的組合組織ト云フコトニナツタカラシテ、自然第十二條ニ依テ一般軍人ニ之ヲ適用シナケレバナラヌコトガ起ツテ來タノデアアル、ソレデ私ハ今日ハ總テ聽キ放シニスルコトニシテアリマスカラ、聽キ放シデ宜シイノデス、其通り承ツテ置キマス、尙ホ私ガ聞ク所ニ依リマスルト云フト、斯ウ云フコトガアルノデスナ、陸軍ノ方ニハ如何カト思ヒマスルガ、海軍ノ方デハ此勞働法ガ施行サレルコトヲ見込シテ、サウシテ海軍省デハ昨年ノ十二月十二日ヲ以テ、海軍ノ技手養成所ノ練習生、ソレカラ同所ノ卒業職工及海軍艦政本部製圖工場附屬、印刷工場配屬職工、之ニ對シテハ軍屬制ヲ布カレテ

居ル、急遽トシテ軍屬制ヲ布カレタ爲ニ、海軍勞働聯盟デハ悉ク此中心人物ガ攫ハレテシマッタ——攫ハレテシマッタ爲ニ、殆ド此海軍勞働聯盟ト云フモノハ、勞働問題ニ付テ理解無キ人々ノミ殘ツテ、寧ろ是ハ指導者ヲ失ツテ、危險ヲ感ズル虞ガアルト云フコトヲ承ツテ居ル、是ハ風聞デアアルカモ知レマセヌガ、シテ見レバ此海軍ト同ジヤウナヤリ方デ、陸軍ニ於テモ矢張砲兵工廠トカ、其他軍需品ニ關スル所ノ職工ナドハ悉ク是ハ軍屬ニ編入シテシマッタ、サウシテ此面倒ヲ一掃スルナド、云フヤウナ御考カラ、サウ云フコトヲシヤウト云フ企ガアルヤニ聞イテ居リマスガ、此海軍省ノヤウナ斯ウ云フヤリ方ヲヤラウト云フ御考ガアリマスカドウカ、ソレヲ一ツ御聞キ致シマス

○宇垣國務大臣 第一ノ御話ノ此第十二條ガ出來テ來レバ、第一條ハ底拔ケニナツテシマフデハナイカ、斯ウ云フ願慮モアリマセウ、ソレガ爲ニ此第三十三條デ縛ツタ積リデ居ルノデゴザイマス、ソレカラ今ノ海軍ノ例ヲ引イテ御話ニナリマシタガ、海軍關係ノ方ハ私ハ能ク存ジテ居リマセヌガ、陸軍ノ方面ニ於キマシテハ、此法規ガ成立ツカ成立タヌカモマダ分ラナイノデアリマス、縱令成立ツニ致シマシテモ、成ベク手ヲ廻シテ只今御述ニナツタヤウナ措置ヲ執ルト云フ考ハ毛頭持ツテ居リマセヌ、ソレカラ先キノ御尋ノ中デ、尙ホ

一ツ殘リテ居リマシタノガ第三十三條

ノ適用ノコトデアリマス、是ハ即チ現
役軍人及召集中ノ在郷軍人、是等ニ對シ
テハ禁止等ヲシナケレバナルマイト思
ヒマス、尤モ召集中ト申シマシテモ、此
教育ノ爲ニ年々歳々繰返シテ居リマス
ル所ノ三週間トカ二週間トカト云フ此
短期ノ召集ハ無論含ミマセヌ、所謂有事
ノ時ダケ即チ戰時ノ部隊ニ參加スル召
集、斯ウ云フノデ宜カラウト思ヒマス、
尙ホ詳細ニ今研究致シテ居リマシテ、
細カナ點ニ於テハ斯ウ云フ風ニ制限
スルトカ、或ハ是ハ如何ニ禁止スルト
カト云フヤウナコトモ尙ホ攻究中デア
リマスガ、大體主ナルコトヲ申上ゲレ
バ、サウ云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマ
ス、所謂勅令デ今申上ゲタヤウナコト
ヲ規定シタラ宜カラウカト云フ方針ノ
下ニ研究ヲ進メテ居リマス

○清瀨委員 豫備、後備、在郷軍人ハ這
入ルト云フ……

○宇垣國務大臣 在郷軍人——所謂有
事ノ時ニ召集ヲ受ケタ際ニハ這入ルノ
デアリマス

○清瀨委員 有事ノ時デハナイ平素ハ
……

○宇垣國務大臣 平素デモ教育ノ爲ニ
年々二週間トカ三週間召集ヲ受ケマス
ガ、此時ハ極ク短期ノコトデアルカラ、
這人ッテ居ル者ヲ出ストカ、又ハ軍隊カ
ラ外ヘ出タナラバ、再ビ這入ルトカ、ソ
ンナ事ヲスルダケノ必要ハナイダラウ

ト思ヒマス

○清瀨委員 紡績職工トカ鐵工トカノ
軍人ガ澤山這入リマスナ、ソレヲ制限
スル者ハアリマセヌカ

○宇垣國務大臣 ソレハ現役中ト戰時
ノ召集中ハソレヲ止メヤウ……

○清瀨委員 有事ノ際ノ召集デスネ、
其他ノ平時ノ場合ニ於テハ、所謂在郷
軍人ガ鐵工トカ紡績トカ他ノ産業ヘ這
入ッテシマッテモ、ソレヲ御制限ニナル
コトハナイト云フ……

○宇垣國務大臣 ソレハナイデス、平
時地方ニ居ッテ仕事ヲシテ居ル、サウ云
フトキニ制限ヲ與ヘル積リハナイデス

○藏園委員 モウ一ツは極ク漠然タ
ルコトヲ御聞キスルノデアリマスガ、
此陸海軍ハ非常ニ同盟罷工ト云フコト
ヲ怖レテ、此同盟罷工ニ關スル所ノ規
定ヲモ此勅令中ニ規定シヤウト云フヤ
ウナ企ガアルヤニ風聞スル者ガアリマ
ス、是ハ吾々ハ固ヨリ信ズルモノデア
リマセヌケレドモ、陸海軍ノ從來ノ勞
働問題ニ對スル所ノ態度、即チ不理解
ナル態度カラ想像シテ見マスルト、此
勅令ニ於テ同盟罷工ニ關スル規定ヲ陸
海軍直營ノ勞働者ニ對シテ規定スルト
云フヤウナコトノ風聞ガアッテ、甚ダン
レニ對スル疑惑ヲ懷イテ居ル者ガ多イ、
此點ニ對シテハ軍務當局ハドウ云フ御
考ヲ持ッテ居ルカ、此同盟罷工ヲサウ云
フ魔ノ如ク恐ル、必要ハナイ、今日ハ
寧ロ軍屬ノ優良職工ノ如キハ解放シテ

置ク方ガ、却テ勞働問題ノ解決ニ便利デ
アル、其方ガ却テ勞働問題ノ理解ヲ得
ルニ便利ガアルニモ拘ラズ、ソレヲ手心
ニ依テ同盟罷工マデモ禁止セントスル
ヤノ風聞ガアルノハ、強チ其風聞ガ風
聞ノミニ止ラズ火ノ在ル所ガアリハセ
ヌカト疑フノデアリマス、此點ヲモウ
少シドウカ……

○宇垣國務大臣 只今ノ御話ノ如ク全
ク風聞デアリマス、陸軍當局トシテハ
何等其事ハ考慮致シテ居リマセヌ

○藏園委員 私ハモウ是デ止メマス
○原(惣)委員 私ハ第一、陸軍ノ軍人
ト云フ意味ハ、上ハ陸軍大臣ヨリ下軍
人マデガ軍人ト云フノデアリマセウ
ガ、勞働者ノ意味ハ益不明確デアアル、
軍屬ハ勞働者ノ意味デアリマセウカ、
十二條ニ於テ「雇傭者又ハ其ノ利益ヲ
代表スル者ハ此ノ限ニ在ラス」ト云フ
コトノ内務大臣ノ御答辯ガアリマシタ
ガ、斯様ナ三十三條ニ於テ特別ニ禁止
スルト云フ點カラ見マスルト、軍人軍
屬ハ勞働者デ有リ得ルト云フ前提ノ下
ニ、特ニ御分ケニナッテ居ルカラ、此十
二條ノ但書デ軍人軍屬ニ付テハ禁止シ
得ルカラ此但書デ十分デアリマセウ、
然ルニ特別ニ三十三條ヲ置カレルト云
フコトハ、是ハドウ云フ意味デアリマ
スカ

○宇垣國務大臣 第一條ノ勞働者ト云
フ意味ノ中ニハ、軍人ハ無論含シテ居
リマセヌ、軍屬ノ中ニハ若干ハ勞働者

ノ意味ノ含シテ居ル者モ居リマスガ、
其數ト雖モ極メテ微々タルモノデ極ク
僅カナモノデアリマス

○原(惣)委員 サウスルト軍人ハナイ
ガ、軍屬ハ雇傭契約上カラ成立ッテ勞働
者デアリマスガ、官制ニ依テ成ッテ居リ
マスガ、若クハ雇傭契約上ノ所謂軍屬
デアリマスガ、ソレヲ御聽キ申シタイ

○宇垣國務大臣 軍屬ノ中ニハ雇傭契
約カラ成立ッテ居ルモノモアルシ、又特
定ノ官制ノ上カラ成立ッテ居ルモノモ
アリ、二様ニ分レテ居リマス

○原(惣)委員 サウスルト此所謂雇傭
契約上ノ範圍ニ限ルト云フ勞働者ノ定
義ハ、内務大臣ノ定義トハ違ッテ居ル
ガ、此點ハ長岡政府委員ハドウ云フ御
考デアリマスカ

○長岡政府委員 三十三條ノ軍屬ト云
フノハ雇傭契約ニ依テ成立ッテ居ル勞
働者デアアル、軍屬ニ付テハ斯ウ云フ意
味ニ解釋シテ居リマスケレドモ、此事
ニ付テハ今暫ク待ッテ載イテ午後ニ又
改メテ御答致シマス

○原(惣)委員 承知致シマシタ、是デ
宜シウゴザイマス

○山口委員 陸軍大臣カラ御答ガアリ
マシタガ、軍屬ト云フ中ニハ職工ガ若
干居ル、此事ハ陸軍モ海軍モ共通デア
リマスガ、陸軍ノ數トソレカラ海軍ノ
方モ知リタイト思ッテ居リマス

○宇垣國務大臣 陸軍ノ方ハ一萬七十
ノ中ノ八十三名デアリマス、海軍ノ方

ハドウカ海軍ノ當局ニ御尋ヲ願ヒマス

○長岡政府委員 海軍ノ方ハハッカリシマセヌガ、聞キマスルト約三百人ダト云フコトデス

○山口委員 サウスルト將來ノコトハ分リマセヌガ、先程藏園君ノ御尋ニナッ

タ海軍ノ方デ近ク軍屬ノ範圍ヲ擴張シタト云フコトデスガ、是等ノ點ニ付テハ陸軍ノ方ハサウ云フ御考ハアリマセヌカ

○宇垣國務大臣 先刻藏園君ノ御尋ニナッ、サウ云フ事ハ考慮致シテ居リマセヌ

○清瀨委員 勞働組合法ノ十六條乃至十九條ニ主務官廳ト云フコトガアリマスガ、即チ結社ノ解散ヲ命ジタリ取消ヲ命ジタリスル、ソレガ或ハ官業勞働トカ海軍勞働組合トカ、サウ云フ風ナモノニ付テハ其主務官廳ハ陸軍省又ハ海軍省デアリマセウカ、十九條ノ主務大臣ト云フノハ、勞働組合ノ行爲ガ安寧秩序ヲ紊リ又ハ公益ヲ害スルトキハ、主務大臣ハ解散ヲ命ズルコトヲ得ルト云フ、此主務大臣ト云フノハ、是ハ内務大臣ノ積リデアリマスカ、或ハ陸軍大臣關係ノ勞働組合ニ付テハ陸軍大臣デアリマセウカ

○宇垣國務大臣 ソレハ何レモ内務大臣ノ關係デス

○森田委員長 ソレデハ午後二時半マデ休憩ヲ致シマス、二時半ニハ全部御揃ガナクテモヤリマスカラ、成ベク時

間ヲ勵行ヲ願ヒマス

午後零時八分休憩

午後二時四十九分開議

○森田委員長 午前ニ引續キマシテ開會致シマス——長岡政府委員

○長岡政府委員 先程原君ノ御質問ニ對シマシテ答辯ヲ留保シテ置キマシタカラ、其事ヲ簡單ニ申上ゲマス、三十三條ノ陸海軍軍人軍屬ト云フノハ、是ハ雇傭契約ノ下ニ在ル者ノミナラズ、總テヲ包含シテ居ル意味デゴザイマシテ、之ヲ置キマシタノハ、十二條ノ例外規定ニ依リマシテ、雇傭契約ニ依ル肉體勞働者以外デモ組合ニ加入出來ル途ガ開イテアリマスルノデ、隨ヒマシテ三十三條ノ陸海軍軍人軍屬、官制ニ依テ任命サレマシタ者デモ、三十三條ノ規定ガナイト、十二條ニ依テ這入り得ルト云フコトニナリマスルカラ、三十三條ニ斯ウ云フ規定ヲ置イタ次第デアリマス、私ノ午前ノ答辯中ニ於テ、此點ト多少矛盾シテ居リマシタコトガゴザイマシタナラバ、只今御答へ申上ゲタウニ御諒承ヲ願ッテ置キマス

○原(惣)委員 サウシマス、此勞働者ノ定義ヲ伺ヒタイノデアリマス

○長岡政府委員 是ハハッカリ定義的ニ申上ゲルコトハ困難デゴザイマスガ、大體本會議ニ於キマシテ、内務大臣ヨリ御答へ申上ゲマシタヤウニ、雇傭契約ノ下ニ在ル筋肉勞働者ト云フ意味ニ

御諒承ヲ願ヒマス

○原(惣)委員 サウ致シマス、請負契約ノヤウナ場合若クハ自由勞働者ト云フヤウナ場合ハ、雇傭契約ト殆ド同等若クハ其範圍ガ廣イモノデ、私ガ本會議ニ於テ御尋シタ三太夫トカ、道具方トカ、車夫、殊ニ車夫ナドハ殆ド請負契約デア、是ハ雇傭契約ノ問題デハナイ、サウスルト多少例外ガアリマセウガ、大體ニ於テト云フ原則ガ破壊セラレルコトニナリマスガ、若モサウ云フ車夫ノ組合等ノ——私ガ本會議デ御尋ネ致シタ如キモノガ組合ニ這入ルコトニナレバ、三十三條ノ規定ニ依ル軍人軍屬以外ニ是等ノ者ガ勞働者ノ中ニ這入ッテ來マシタナラバ、ドチラガ例外デ、ドチラガ原則デア、ルカ分ラナクナリマス、詰リ勞働者ノ雇傭契約ニ於ケルト云フ意義ガ根本カラ破壊セラレル、勞働組合ノ勞働者ノ意義ハ、益不明確ニナルノデアラウト思フカラ、雇傭契約ト云フ御言葉ハ御取消ニナリマスカドウデアリマス

○長岡政府委員 ソレニ付テハ先日山本君ノ御質問ニ對シテ、私カラ御答へ申上ゲタコトガアリマスルガ、總テノ社會立法ト云フモノハ、定義ヲ明確ニ刑法、民法等ノ實體法ノ如ク規定スルト云フコトハ、非常ニ困難デアリマス、ソレデ今日ハ筋肉勞働者ト云フヤウナ解釋シテ居リマスケレドモガ、過日ドナタカカラ御質問ガアリマシタヤウニ、

結局俸給衣食者ト云フヤウナ者ガ、外國ノヤウニ組合ヲ造ッテ勞働條件ノ維持改善ヲ圖ルト云フヤウニナレバ、矢張社會進步、時代ノ變遷ニ伴レマシテ、勞働者ト云フ中ニ這入ッテ來ル時期ガ來ルト思ヒマス、而シテ總テノ社會立法ト云フモノハ、大體其時ノ社會常識、社會通念ニ依リマシテ意義ヲ定メルト云フコトガ普通デゴザイマシテ、現在ノ刑法ヤ民法ノ規定ノ如ク、勞働者トハ何ゾヤ、勞働爭議トハ何ゾヤ、勞働組合トハ何ゾヤト云フヤウニ、法文的ニ御追窮ニナリマス、云フト、其間極メテ曖昧ナモノガ理窟ノ上デハアリ得ルノデゴザイマス、ソレデ只今御話ノ三太夫トカ、道具方トカ云フヤウナ者ニナリマス、主トシテ筋肉ニ依テ働イテ居ルカ、頭デ働イテ俸給ヲ貰ッテ居ルカト云フヤウナコトガ、稍曖昧ニナリマスガ、是ハ要スルニ段々ニ其觀念ガ明カニナッテ、凡ソ社會常識、社會通念デ判斷出來ルヤウニ進ンデ行クト云フノガ社會立法上ノ常デアリマス、例ヘバ工場法ノ如キデモ、工場トハ何ゾヤト云フ定義ハ下シテアリマセヌノデ、極ク頭ノ良イ方ガ法理的ニ御考ヘニナルト、其間工場デア、工場デナイカト云フコトハ頗ル曖昧ニナリハセヌカト想像シ得ルノデアリマス、只今私ガ申上ゲタ筋肉勞働者デ雇傭關係ノ下ニ在ルト云フコトハ、是ハ法文ニモ何モゴザイマセヌガ、要スルニ今日ノ社會

常識、社會通念ノ上カラ言フテ、勞働者ト云フ者ヲ先ヅサウ思フノガ十人中九人マデノ普通ノ例デアリマシテ、先ヅ銀行ノ簿記ヲ記ケテ居ル者トカ云フヤウナモノハ、勞働者ト云フ觀念ガアリマセヌシ、自分デモ亦勞働者ト名乗ッテ居リマセヌ、社會デモ銀行ノ事務員ハ勞働者ト十人ガ九人マデ認めルヤウニナッテ居リマセヌカラ、極メテ明晰ナ頭腦ヲ以テ法理的ニ御追窮ニナリマス、其間多少中間ノ何レニ屬スルカ曖昧ナ者モアリマスケレドモ、併シ本法デハ純然タル勞働者デアリマセヌデモ、十二條ノ例外ニ依テ組合ニ這入ルコトモ認めマス、其間ニ融通自在ノ所ガゴザイマスルカラ、先ヅ其邊ノ常識的ノ御答辯ヲ以テ御勘辨ヲ願フ外ナイノデゴザイマス

○原(惣)委員 ソレデハ追窮致シマセヌガ、サウナリマス、結局雇傭關係上ノ範圍ト云フ内務大臣ノ御言葉ハ、全部御取消シニナル譯デアリマス、サウシタラ雇傭關係ガ勞働者ト云フコトニナル譯デアリマセヌカ

○長岡政府委員 取消モ何モ申上ゲタ積リデハゴザイマセヌ、大體本法ニ於テ豫想シテ居リマスルノハ、雇傭契約ノ下ニ在ル筋肉勞働者ト云フ意味ニ今日デハ考ヘテ居リマスケレドモ、世ノ中ガ段々進シテ來マシテ、勞働者ト云フ觀念ガ違ヒマス、將來ハ精神勞働者モ含ムト云フ解釋ニナルカモ知レマ

セヌガ、今日デハ先ヅ大體勞働者ト云ヒマス、雇傭關係ノ下ニ一定ノ賃銀ヲ得テ、サウシテ筋肉勞働ニ從事シテ居ル者、斯ウ云フノガ大體勞働者ノ通念ニ一致シテ居ルト考ヘテ居リマス

○原(惣)委員 此問題ハ私ハ執拗ク御尋スルヤウデアリマス、勞働組合ニ加入出來ルヤ否ヤト云フ重大ナ關係ヲ持ッテ居ルノデアリマス、雇傭關係ダケト云フ意味合デ言ツタナラバ、私ガ前ニ述ベマシタ車夫ノ組合ト云フヤウニ、雇傭關係以外ノ筋肉勞働者トカ、其他自由勞働者トカ、土木建築ノ下請負ノ如キ者ハ、決シテ雇傭關係ニ於テ働イテ居ナイノデアリマス、要スルニ私ノ執拗ク御尋スル點ハ、雇傭關係ト云フ意味ヲ取消サシムルト云フヨリモ、社會ノ通念ニ依テ、勞働者ノ定義ヲ御定ニナルト云フ御趣旨ノ下ニ、今長岡サシノ仰セラレルヤウナ意義ナラバ、全ク其意義ヲ成サナイモノデアルト思フカラ、之ヲ御取消ニナッテ、廣ク勞働組合ヲ御認ニナルト云フ御意思デアルカ、ドウシテモ雇傭關係ト云フ觀念ダケデハ進メナイト思フ、社會立法ノ重大ナル法案デアリマスルガ故ニ、其御意思ガアルナラバ、私ハ雇傭關係ト云フモノヲ取消セトハ申シマセヌ、ソレナラバ廣ク筋肉勞働者以外ノ「アングステル」ト云フコトデ、純粹ノ「アルバイター」、使用人ト云フモノモ皆社會ノ通念ニ依テ無論認メテ行カナケレバナラヌ

コトニナルト云フ御言葉サヘ戴イテ置イタナラバ、ソレヨリ以上御追窮ハ申シマセヌ

○長岡政府委員 只今ノ御話ノ通りデアリマス、將來ハ「アングステル」ト云フヤウナモノガ組合ヲ組織シテ、勞働運動ノ渦中ニ投ズル時期ガ來マシタナラバ、法文ノ解釋ト云フモノハ必ズ其時ニハ變ッテ來マセウ、ソレカラ之ヲ勞働者ト認ムル時期ガ將來ルコト、考ヘマス、今日ノ現狀ニ於テハ、内務大臣ノ申上ゲマシタヤウナ定義ガ、先ヅノ現狀ニ一番近い、只今デハ勞働者ト云フモノハ、云フ觀念デアルト、今ノ問題トシテハ御聽取ヲ願ヒタイ

○原(惣)委員 分リマシタ、ソレデ藏園君ガオヤリニナルナラバ私ハ止メマス

○森田委員長 是カラ本論ニナリマス

○原(惣)委員 今ノハ全ク例外デスマセウ

○森田委員長 ソレデハ藏園君ニ願ヒ

○小林政府委員 午前ニ藏園サンカラ、海軍デハ勞働立法ノ制定ヲ變更シテ、職工中ノ色々ノ者ヲ軍屬ニ編入シタヤウナ、即チ昨年ノ暮ニ海軍技手養成所、練習所職工及同所卒業ノ職工及艦政本部ノ印刷工場ノ職工ヲ軍屬トシタ、是ハ事實カ、斯ウ云フ風ノ質問ガゴザイマシタサウデスガ、誰モ海軍ノ者ガ此席ニ居リマセヌデ甚ダ失禮ヲ致シマシタガ、先ヅ根本ノ主義ト致シマシテ、海

軍デハ成ベク職工ハ自由ノ立場ニ置キタイ、成ベク小數ノ絕對ニ必要ノ者以外ニハ軍屬ニシナイト云フ主義ヲ採ッテ居リマス、今日海軍ノ職工ガ總數約四萬八千人バカリ居リマスガ、其中軍屬トシテ扱ハレテ居リマス者ハ二百八十幾人、一寸三百人位ニシカ過ギマセヌ、ソレデ昨年斯ウ云フ風ノ宣誓規則アルガ爲ニ御議論モ起ルダラウト思ヒマスガ、此宣誓規則ヲ變ヘマシタ最近ノ動機ハ、艦政本部ノ製圖工場ニ附屬致シテ居リマス印刷所ノ職工ヲ、矢張宣誓職工ノ中ニ加ヘルト云フコトデ、在來ゴザイマシタ宣誓規則ト殆ド同様デゴザイマス、何ガ故ニ艦政本部所屬ノ印刷所職工ヲ宣誓サセナケレバナラヌカト申シマス、實ハ海軍省ノ建物ノ中ニ、從來印刷所ガゴザイマシテ、ソレハ海軍省ニ附イテ居ッタノデアリマスガ、海軍省デハ海軍省トシテハ職工ヲ使ヒマセヌノデ、ソレデ今迄ハ雇傭人デ印刷工場ニ働イテ居ッタノデス、ソレガ事務ノ都合上艦政本部ノ印刷場ヲ艦政本部ニ附ケタ方ガ都合ガ宜イノデ、是ハ大體御想像ガ付クト思ヒマスガ、雇人ト云フト役人ノ隸屬ト云フ風ニナリマシテ、何時ニ出勤シテ何時ニ歸ッテシマフ、其後作業ヲヤラセルト云フコトハ困難デアリマスガ、職工トナリマスト其邊ガ都合好ク參リマス、ソレデ艦政本部ニ印刷工場ヲ管理セシムル

ト云フコトニ致シマシタ、所ガ艦政本部ハ雇傭人ハ多ク職工デヤツテ居リマス、ソレガ爲ニ在來雇員傭員デアッタ者ヲ艦政本部ニ移シマシタ結果、職工ニナリマシタ、海軍ハ何故ニサウ云フ印刷場ヲ持タナケレバナラヌカト云フト、海軍デハ大體ノ主義ト致シマシタ、成ベク印刷物ヲ部外ニ出シテ居リマス、例ヘバ印刷局ニ御願ヲスルトカ、或ハ普通ノ印刷工場ニヤツテ居リマスケレドモ、極メテ秘密ニ涉ル軍機ノ印刷物デ早ク印刷シナケレバナラヌト云フモノハ、ドウモ海軍省ノ中ニ印刷所ガアリマセヌト困リマスカラ、ソレガ爲ニ印刷所ヲ持ッタ次第デアリマスガ、其人數ハ今日デアリマスト十二人居リマス、十二人ノ傭員ノ職工ガ居リマス、工場其物ヲ艦政本部ニ移シマシタ、其仕事ハ今申上ゲマシタヤウニ極メテ秘密ニ涉ル書類ヲ印刷致シテ居ルノデアリマスガ、殊ニ軍器ヲ造リマスノハ宣誓制限ノ中ニ致シタノデアリマス、ソレカラ海軍技手養成所職工ノ御話ガゴザイマシタガ、是ハ今迄モ宣誓サセルコトニナツテ居リマス、海軍技手養成所ト申シマス、大正八年三月ニ出來マシタ、詰リ部内ノ中ノ技手ニナリマス者ヲ、海軍ノ機關デ特別ニ養成シタ方ガ宜イト云フノデ、大正八年ニ技手養成所ガ出來マシタ、斯ウ云フ規則ガ出來マシタ此所デ養成致シマスモノハ職工ノ中カラ宣誓ヲシテ這

入ル者ト、又技手養成所ニ這入ルト云フ一般ノ志願者ノ中カラヤカマシイ試験ヲ致シテ入レタ者ヲ、三年ノ教程デ教ヘテ居リマス、決シテ職工ヲ強制シテ此學校ニ入レルト云フ立前ノモノデハアリマセヌ、大正八年三月以來這入ッテ居リマシタ、昨年末ニ宣誓規則ヲ改メテドウスルツ云フ關係ニハナツテ居リマセヌ、是ダケ御答ヲ申上ゲマス

○藏園委員 大體御答ハ同一ダラウト思ヒマスカラ、此以上軍部ニ對スル質問ハ止シマス、ソレカラ組合法デモウ一ツ御答ヲ願フテ置キタイノハ、此合併ト云フコトハ、矢張同種類ノ組合デナケレバ許サヌノデアルカ、又ハ一旦組合トシテ成立シテ居ルモノハ、此職業若クハ産業ヲ異ニスル組合モ矢張合併シテ差支ナイノデアルカドウカ

○長岡政府委員 矢張第一條ノ規定ガ其場合ニ出來テ居ルモノト解釋シテ居リマス

○藏園委員 組合ニ對スル質問ハ此位ニ致シテ置キマス、次ニハ爭議調停法ニ關スルモノヲ御聽キ致シタイト思ヒマス、先ヅ御尋シタイノハ此爭議調停法ノ第一條ノ「左ニ掲クル事業ニ於テ勞働爭議發生シタルトキ」此爭議ハ勞働條件ニ關スル爭議ヨリモ一層廣イ意味ノ爭議デアリマス、但シハ又此勞働條件ニ關スル爭議ニ限定セラレテ居ルノデアリマスカドウカ、先ヅ其意味

ヲ明瞭ニ致シテ置キタイ

○長岡政府委員 午前ノ御質問ニ御答ヘ申上ゲマシタ通りニ、只今迄ノ吾々ノ經驗ニ依リマスルト、日本デ今迄起リマシタ爭議ハ、此産業上ノ問題以外ノモノハゴザイマセヌノデ、先程モ申上ゲマシタヤウニ外國ニ例ノアルヤウナ政治的ノ意味ヲ持ッタ同盟罷業ト云フヤウナ經驗ハゴザイマセヌ、勞働爭議ト申シマスコトヲ非常ニ狹義ニ解シマシテ、唯賃銀ノ値上、時間ノ短縮ト云フヤウナコトニ致シマシタ、ソレ以外ノ爭議モゴザイマスガ、今迄起リマシタ爭議ハ間接直接ニ勞働條件ニ關係ガアリマス、若シ社會事情ノ非常ナ變遷ガゴザイマスレバ格別ゴザイマスガ、然ラザル以上ハ今後モ矢張爭議ト云フモノハ、廣義ノ所謂勞働條件ニ關係アルモノ、ミト云フヤウニ解釋シテ居ル次第デアリマス

○藏園委員 ソレハ御答ノ通りニ承ッテ置クコトニシテ、此爭議調停法ハ本會議デモ概略私カラ質問ヲ申上ゲマシタガ、當事者問題ニ付テハモウ曩ニ清瀨君ガ代表的ニ御尋シタモノト見テ、私ハ此當事者問題ニ付テハモウ御尋スルコトハ避ケマス、唯併シナガラ此當事者一方主義ヲ之ニ採ッタト云フコトハ如何ナモノデアリマス、多クハ此調停ニ付テハ——當事者雙方ノ申請ニ待ツベキガ即チ調停法ノ精神ニ適フモノデハナイカ、又其結果ヲ得ルモノ

デハナイカ、加奈陀ノ勞働爭議解決法ナドニ依ルト、當事者雙方ノ申請ヲ待ッテ初メテ調停會ヲ開クト云フコトニナツテ居ルヤウニ思ハレマス、然ルニ本案ハ當事者一方ヨリ申請ガアッタトキハ、直ニ之ヲ開クト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、併シ唯茲ニ例外トシテ此第二項ニ於テ「前項ニ掲クル以外ノ事業ニ於テ勞働爭議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得」斯ウ云フ法文ニナツテ居リマス、是ハ寧ロ例外ト原則ヲ全ク顛倒シタ感ジガ私共ニハスルノデアリマスガ、之ニ對スル政府ノ御意見ヲ先ヅ承リタイ

○長岡政府委員 只今ノ原則例外ノ御質問ハ、法文ヲ御覽ニナリマス、詢ニサウ云フ氣分ガ致スノデアリマス、藏園君ノ御質問ノヤウナ御疑問ガ起ルノハ無理カラヌコト、考ヘテ居リマスガ、是ハ唯法文ノ形式ノ論デゴザイマシテ、第一條ノ各號ニ列舉シテアリマス六ツノ事業ニ從事シテ居ル勞働者ノ數ハ極ク少ナイ、全國ノ勞働者總數七百八十萬人ト云フモノカラ見マス、一割ニモ足ラヌ數デアルノデアリマス、其九割以上ノ勞働者ニ對シマシテハ、第一項ノ規定ガ當嵌ツテ參リマスカラ、先ヅ九割以上ノ勞働者ニ對シマシテハ、雙方カラ申出ガアッタ其時ニ調停委員會ヲ開設スルコト云フコトガ適用サレルノデアリマス、一割ニ足ラナイ

僅カノ勞働者ニ對シテノミ一方ノ請求ニ依テ調停委員會ヲ開クコトガ當ルルノデアリマスカラ、數ノ上カラ原則例外ヲ御著眼下サルト、只今ノ御意見ノ通りニ大部分ハ雙方ノ申出ニ依テ調停委員會ヲ開ク主義ニナリ、僅カ一割ニ足ラナイモノニ對シテノミ例外トシテ一方ノ請求ニ依テ調停委員會ヲ開クコトニナツテ居リマス、其理由ハ本會議ノトキニ大臣カラ御答申上デマシタ、是等ノ事業ハ公衆ノ日常生活ニ直接關係アル仕事デ、之ニ依テ一般ノ市民——第三者ガ非常ニ生活上ノ脅威ヲ受ケルモノダケヲ選リ出シマシテ、是等ノモノハ特別ノ規定ヲ置イタト云フヤウナ意味ニ御諒承ヲ願ヒマスレバ、大體形式ハ別デアリマスガ、實質ニ於キマシテハ藏園君ノ御希望通り、原則例外ノ御考ガ當筈ルコトニ考ヘテ居リマス

○藏園委員 次ニハ本爭議調停法ハ、調停ノ效果ニ對シテハ何等強制の服從義務ガナイノデアリマス、然ルニ其手續ニ至リマシテハ、非常ナ強制のノ規定ニナツテ居ル、即チ第二條ニ依テ「調停委員會ヲ開設セントスルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ニ之ヲ通知スヘシ」トアリマシテ、一旦通知ヲ爲シタ後ハ當事者雙方ハ非常ナ束縛ヲ受ケルノデアリマス、ソレハ第十三條ニ於キマシテ「調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ當事者又ハ其代表者其ノ他利害關係人又ハ參考人ニ對シ出席説明ヲ求メ又

ハ説明書類ヲ提示ヲ求ムルコトヲ得」斯ウアリマシテ二十條ニ「故ナク第三條ニ規定スル出席説明又ハ説明書類ノ提示ヲ爲サザル者ハ五十圓以下ノ料ニ處ス」斯ウ云フ規定ガ定メラレテアル、惟フニ行政官廳ニ出頭ヲ命ゼラレテソレニ應ジナカッタ場合ニ於テ、此料ニ處スルト云フ處罰ノ規定ハ、現今頗ル古キ時代ノ思想ニ屬スルモノデアッテ、現在ニ於キマシテハ段々之ヲ整理サレツ、アル狀況デアル、然ルニ茲ニ最モ不思議ナ事ハ鈴木參典官ナドハ殊ニ能ク御感ジガアルト思ヒマスガ、裁判所ヨリ出頭ヲ命ズルコトデサヘモ、當事者本人ニ對シテ出頭ヲセザル場合ニ於テ、斯様ナル重キ罪ニ處スルト云フコトハ恐ラクハナイノデアリマス、當事者本人ニ出頭ヲ強制シテ之ニ應ゼザル場合ニ於テ、五十圓以下ノ料料ニ處スルト云フヤウナサウ云フ制裁ヲ加ヘタル立法例ヲ私ハ未ダ見ナイ次第デアリマス、ソレモ宜シイ、所ガ當事者雙方カラ申請シタモノデアラナラバ、ソレハ場合ニ依テハ忍ブベシトシマセウ、所ガ此調停法ノ第一條ニ於キマシテ、當事者ノ申請以外ニ「行政官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキ亦同シ」斯ウ云フヤウニ調停委員會ヲ開設スル即チ強制的規定ガアルノデアリマス、當事者雙方ノ申請ガアツテ、當事者ガ之ニ出頭ヲ命ゼラレタ場合ニ、出頭セザル場合ハ宜シク斯ノ如キ制裁規定ヲ設ケテ

置クコトモ宜イデゴザイマセウ、所ガ行政官廳ガ勝手ニ調停ヲ要求シテ置イテ、サウシテソレニ當事者雙方ガ其出頭ノ命ニ應ジナカッタ云ウテ、之ニ對シテ重大ナル制裁ヲ科スル、證人若クハ參考人ノ如キ者ニ對シテノコトデアラナラバ格別デアリマスケレドモ、當事者本人ノ出頭ニ斯ノ如キ強制的規定ヲ設ケ、且ツ斯ノ如キ重キ處罰ヲ求メルト云フコトハ空前ノ事例デナイカト思ヒマス、併シ捜シタナラバ他ニモアルカモ知レヌガ、先ヅソレヲ伺ッテカラ更ニ次ノ質問ニ移リタイト思ヒマス

○長岡政府委員 第一ノ御質問ハ結果ヲ強制シナイコトニモ觸レテ居ッタヤウニ伺ヒマシタガ、何故ニ此結果ヲ強制シナイカト云フ御質問デモアッタヤウニ伺ヒマシタガ、此問題ニハ御答致シマセヌ、結果モ強制シナイ者ニ何故ニ當事者ニ出頭ノ義務ヲ強制シタカト云フ御話デゴザイマスガ、大體ニ於キマシテ吾々ノ過去ノ經驗ニ依リマス、調停委員會ニ於キマシテ罷業ノ或ル部分ハ解決ガ著クト云フ考ヲ持ッテ居リマスガ、此調停委員會ヲ開クコトガイケナイ、公益事業ニ付テ強制的ニ調停委員會ヲ開クコトガ宜シクナイ

「森田委員長長席ヲ退キ安藤理事代リ著席」

ト云フ御意見デアリマスレバ、是ハ自ラ意見ノ相違ニナリマスケレドモ、公衆ノ日常生活ノ保護ノ爲ニ、或ル種ノ事業ニ從事スル勞働者ノ同盟罷業ニ於テ、調停委員會ヲ開催スルコトヲ決メタ以上ハ、之ニ對シテ後ノ手續ヲ規定スルノハ已ムヲ得ナイコトデアリマシテ、委員會ヲ開イタガ當事者ガ出テ來ナイ、出テ來テモ誠意ノナイ事バカリ言ッテ虚偽ノ陳述スルト云フノデハ、折角委員會ヲ開キマシテモ何ノ役ニ立チマセヌカラ、既ニ調停委員會開催ヲ強制セラレタ以上ハ、當事者ノ出頭ヲ命ジ、又虚偽ノ陳述ヲ爲ス者ニ對シテ相當ノ制裁ヲ加ヘルノハ已ムヲ得ヌコト考ヘマス、勿論唯官廳自體ノ都合ニ依リ、行政官廳ニ出頭シナイ故ヲ以テ重キ罰ヲ加ヘルコトハ、藏園君ノ御意見ノヤウニ稍官僚の時代後レノ感ガアリマスガ、是ハ行政官廳ニ出頭ヲ命ジテ居ルノデハナク、調停委員會ニ出頭ヲ命ジテ居ルノデアリマシテ、之ニ對シテ斯カル制裁ヲ置クコトハ、單リ日本ノミナラズ——敢テ外國ノ立法例ヲ模倣スル必要ハナイト言ヘバソレマデバアリマスガ、外國ノ立法例ヲ見テモ當事者ノ不出頭、虚偽ノ陳述等ニ對シテハ、相當ノ制裁ヲ加ヘテ居リマス、右ニテ御諒承ヲ願ヒマス

○藏園委員 外國ノ立法例ハ不幸ニシテ今記憶ガアリマセヌガ、併ナカラ任意若クハ強制調停ト言ウテ宜イカ、外國ノ例ニ依レバ多クハ調停裁判若クハ産業裁判デアツテ、サウ云フ場合ニハ制裁規定ノアル場合モアリマセウ、併ナガ

ラ單ニ調停委員會ニ出頭ヲ命ズル場合ニ、即チ本法ノ如キ何等裁判權ノ伴ハナイ、司法權ノ伴ハナイ調停委員會ニ出頭ヲ命ズル、而モ第三者ニ非ズシテ證人トカ參考人トカ云フ即チ國家ノ義務ニ服從セナケレバナラヌト云フ意味合ノ場合ナラバ格別デアルケレドモ、當事者本人ハ自由デス、訴訟法ニ於テモ當事者本人ノ出頭ハ自由デス、其訴訟ノ利害關係ヲ有スル者ハ虚偽ヲ言ウテモ宜イ、虚偽ニモ責任ガナイノデス、司法權ニ於テ裁カレル場合デスラモ、當事者本人ノ出頭ヲ強ユルコトニ付テサウ重イ規定ハナイ、又當事者本人ノ虚偽ヲ罰スルコトハ司法規定ニ於テモナイコトデアリマス、峻嚴ナル司法規定ニ屬スル場合ニ非ズシテ、當事者相方ノ會話ニ依テ平和ヲ望ム規定ニ於テ、斯ル峻嚴ナル規定ガアルコトハ甚ダ撞著セルモノデハナイカト考ヘテ居リマス、而シテ本法ハ屢申ス通りニ何ノ爲ニ強制調停ノ手續ヲ執ルコトニナツタノデアルカ、即チ行政官廳ガ必要アル場合ニハ又同ジト云フノデ以テ、丁度當事者間ノ勞働者、雇傭者ノ爭議ガ火ノ手ヲ揚ゲテ最モ盛ナル場合ニ於テ、直グ行政官廳ガ必要アリトシテ、局外者カラ見テ之ニ呼出ヲ掛ケルコトニナレバ、玆ニ水ヲ差サレルト同ジ事デアル、折角當事者本人ニ於テ漸ク爭議酣ニシテ問題解決ノ緒ニ就イタ場合ニ於テ、突如トシテ第三者タル而モ素人ノ行政

官廳ガ之ニ呼出ヲ掛ケルト云フ行政官廳ノ職權開始ト云フコトハ、甚シキ時代錯誤デハナイカト私ハ思フ、ソレモ貴方ノ仰シヤル通り、第一項カラ第五項マデ書イタ公益ニ關スルト云フ場合ニ極ク限定サレテ居タモノナラバ宜シイ、ソレナラマダ一理アリマスガ、一般ニ對シテ強制調停ノ方法ヲ執ルコトハ調停法ヲ設ケラレタル精神ニ少クトモ相反シテ居ルト私ハ考ヘルノデアリマス、而モ此條文ニハ「行政官廳ハ當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得、當事者ノ請求ナキ場合ト雖行政官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキ亦同シ」ト書イテアリマスガ、斯ウ云フ場合ハ斯ウ書クノガ普通デアアル「勞働爭議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得」所ガ是ハ表ニ任意調停ノ看板ヲ掲ゲテ、裏ニ廻ッテ直ニ狗肉ヲ賣ッテ居ルト云フ洵ニ狡イヤリ方、併シ貴方ガタカラ言ヘバ巧ミナヤリ方、斯ウナルノデス、ダカラ行政官廳ガ本當ニヤル積リナラバ當事者又ハ行政官廳ノ請求ニ依リト御書キニナルノガ宜クハナイカ、之ニ付テ何カ言ヒ分ガアリマスレバ承リタイ

○長岡政府委員 言ヒ分ト云フコトデ甚ダ恐縮シテ居リマスガ、唯説明ダケ申上ゲマスガ、法文ノ見方ガ或ハ下手デアルト云フ御批評ハ或ハ辯解ラスルコトモ如何カト考ヘマスルガ、併シ狡イト云フコトハ毛頭ナイ積リデ、サウ云フ駈引ハ致サナカタ積リデアリマスガ、只今ノ御質問中ニ公衆ノ日常生活ヲ脅カスヤウナモノニ對シテハ、當事者ノ呼出シハ先ヅ已ムヲ得マイ、是ダケハ御同意ノ御言葉ガアリマシテ非常ニ安心シマシタガ、ソレ以外ニ任意調停ノ場合デモ、當事者ノ喚出強制ト云フヤウナコトハ酷イデヤナイカ、任意調停ノ場合ニ於ケル御叱言ノヤウニ拜承致シマシタガ、任意調停ノ場合ニ於キマシテハ、苟モ雇傭者側勞働者側デ主ニ調停ニ依テ罷業若クハ勞働爭議ヲ解決シタイト申出シテ、兩方任意デ調停委員會ヲ開カウト云フコトヲ申出シテ居リナガラ、愈委員會ヲ開クト、駈引シテ誰モ出テ來スト云フコトデアリマス、何等ノ效力モナイコトニナリマスカラ、雙方デ委員會ヲ開キタイト云フコトヲ申出シテ來タ以上ハ、出頭ノ義務ヲ負ハスルト云フコトモ已ムヲ得ヌコトデ、前段ヲ御賛成下サイマシタヤウニ、後段モ併セテ御諒承ヲ願ヒマシタナラバ、非常ニ仕合ト存ジマス

○藏園委員 凡ソ此調停法ニ付キマシテハ、先ヅ考ヘテ見ルトニツツ位ニナツテ居ル、例ヘバ調停ハ仲裁々判ヲ伴フト云フヤウニ、仲裁々判マデモ伴ウタル法制、又本法ノ如キ何等ノ效能ノナイ調停委員會ト云フモノモ世界中ニ一ツカニツカアル、ソレカラ最近ノ模範的調停ノ方法ト云フモノハ、調停ノ方法ニアラズシテ、寧ロ進ンダルモノハ調停調査會デヤナイカト思フ、此爭議ノ調停法ト云フコトハ今日ハ餘リ好マス、爭議ノ調査會ト云フヤウナモノデ、丁度此結果ガ爭議ノ調査會ト同ジ結果デアル、ソレナラバ何モ之ヲバ調停委員會トセズシテ、其爭議ノ性質ヲ調査シテ、サウシテ之ヲ當事者雙方ニ移牒シテ、サウシテ當事者雙方ノ反省ヲ促シ、又世間ノ批判ヲ乞フト云フ唯一ツノ調査ノ材料、公平ナル調査ヲバ世間ニ發表スルト云フ方法ニ出ラレタ方ガ、最モ初歩ノ爭議調停ニ關スル規則デハナイカト思フ、イキナリ斯ウ云フムヅカイモノヲ出シテ、サウシテ手續ニ非常ニ強制的ノ手續ヲ置イテ、サウシテ其結果ハ調査會ト同一ノ結果ニ陷ッテ居ル、何ニモ效果ハナイノデアアル、サウシテ而モ其實議ノ結果ハドウスルカト云ヘバ、世間ニ公表スルノデヤト云フノデス、即チ「行政官廳ハ前條ノ規定ニ依ル、報告ノ要旨ヲ公表スヘシ」是ダケヨリ外ハナイ、調停委員會ガ折角骨ヲ折ッテ出來上ツタモノガドウカト云ヘバ、結局是ハ公表シテサウシテ世人ノ道德的批判ヲ受ケルト云フダケニ過ギナイモノダラウト思フ、サウスルナラバ何故ニ此初歩ノモノハ調査會ニシナカッタカ、又調査會ニスルコトガ厭デ、モウ一步進ンダモノニスルト云フナラバ、借地借家ノ爭議調停法、小作爭議調停

法ト云フヤウナモノ、如ク、何故ニ司法調停ニ之ヲ移サヌノデアルカ、此勞働爭議ニ關スルモノダケヲ獨リ強制調停ニシテ、サウシテ爭議ニ水ヲ差スヤウナコトヲスルト云フヤウナヤリ方ハ、餘リ結構ナヤリ方デハナイト思フガ、司法調停トカ若クハ調査會等ニ付テ、何等カ考慮セラレタコトガアルカ、其中庸デモ採ラタノデスカ、是ガ今日ノ狀況ニ適スルトデモ御考ヘニナタツノデアルカ、之ヲ伺ヒタイ

○長岡政府委員 藏園君ハ此調停ノ結果何ノ效力モナイ、效果モナイト云フコトヲ御力説ニナリマシタガ、當局者ハ必シモサウ信ジテ居リマセヌ、從來ノ爭議ノ經驗ニ依リマス、爭議ノ初メノ要點、即チ賃銀問題トカ、其他ノ要求ト云フヤウナ冷靜ナ問題ハ、多ク爭議ノ進行ト共ニ棚ノ上ニ上グラレテシマヒマシテ、感情ガ亢奮シマス結果、唯勝ツカ負ケルカ、戰フト云フヤウナ狀態ニナリマスカラ、其結果或ハ忌ハシイ事件モ惹起スルコトモアルノデゴザイマス、外國ニ於キマシテモ此調停ノ效果ニ法律上ノ問題ヲ結付ケマセヌデモ、矢張此調停ニ依テ同盟罷業ノ勃發ヲ防イデ居ルト云フ好イ例ガ澤山アルノデゴザイマス、我ガ國民ハ多數集リマスト残念ナガラ多少亢奮スルト云フ性質モアリマスノデ、從來爭議ガ圓滿ニ解決シテ居ルト云フ場合ニハ、多ク當事者雙方デ角力ヲ取ルト云フコトデ

ナシニ、其間ニ矢張何人カガ仲裁ニ這入リマシテ、知事ガ仲裁ヲシタトカ、或ハ市長ガ仲裁ヲシタトカ、或ハ其他ノ第三者ガ仲裁ヲシタトカ云フヤウニ、行司ガ這入リマシテ初メテ雙方圓滿ナ解決ヲ見ル、無理ナ要求或ハ無理ナ拒絕デアルト云フヤウナトキニハ何トモ致方ゴザイマセヌガ、雙方ノ感情ノ行違ガアリ、或ハ少クトモ雙方ニ誤解ガアルト云フヤウナ場合ニハ、圓卓ノ周圍ニ膝ヲ交ヘマシテ、會社ノ經濟狀態モ説明シ、勞働者ノ生活狀態モ説明シ、大體雙方無理ノナイ所ニ導イテ參リマシタナラバ、外國ノ例ノ如ク私ハ恐ラクハ之ニ依テ同盟罷業ノ勃發ヲ防ギ、尙ホ又少クモ同盟罷業ノ日數ヲ少クスルト云フヤウナ效果ハ必ズアルモノト信ジテ居リマス、司法調停ノ御話デゴザイマシタガ、是ハ小作調停法ト違ヒマシテ、小作爭議ニ於キマシテハ多ク過去ノ小作條件ヲ履行スルコト、若クハ之ヲ變更スルコト云フヤウナ法律問題ニ觸レテ居リマスノト、又是ハ事件ガ頗ル單純デゴザイマスガ、勞働爭議ニ付キマシテハ事件ガ千差萬別デアリマスノト、早ク之ヲ解決セナケレバナラヌト云フノト、尙ホ又法律問題デナクシテ多ク事實上ノ爭ガ多イノデゴザイマスカラ、是ハ雙方ノ互譲ト云フコトニ依リマシテ解決ヲ付ケルコトガ至當デアリマシテ、小作調停法ニ於ケル如ク長イ期間掛カテ裁判所デ之ヲ判決ス

ルト云フコト、ハ全ク體様ヲ異ニシテ居ルト考ヘマシタガ故ニ、之ニ付キマシテハ裁判所ヲ煩サナイト云フコトニ致シタ次第デゴザイマス

○藏園委員 サウ云フコトナラバ第三者ノ調停ニ依ルト云フナラバ、是ハ親分ニ委シテ置イタラ宜イト思フ、今マデ日本ニ於テハ所謂親分ガ總テ斯ウ云フ問題ニ這入ッテ、サウシテ上ノ御厄介ニナラズシテ大概始末ヲ付ケテ居ル筈デアル、サウ云フ譯デアリマスカラソナ素人ノ——是ハドウナサルカ知ラヌガ知事ガ干與ナサルノカ、大臣ガ調停委員長ニデモナラル、ノカ知ラヌガ、兎ニ角サウ云フコトハ大シタモノデヤナイト思フ、マアソレハ聽キ置キマシセウ、次ニハ調停委員會ノ構成、調停委員會ト云フノハ是ハ又ムヅカシイモノデス、是ハドウナルカト云フト、規定ノ表カラ見レバ非常ニ公平デアッテ、實際ニ於テハ出來ヌコトヲ強ヒテ居ルコトニナル、調停委員會ハ九人ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス委員ノ中六人ハ勞働爭議ノ當事者ヲシテ各同數ヲ選定セシメ他ノ三人ハ當事者ノ選定シタル委員ヲシテ爭議ニ直接利害關係ヲ有セサル者ニ就キ選定セシメ行政官廳之ヲ囑託ス「ソコデ三人ト三人ハ同數デ双方カラ出ル、アトノ中一人宛ハ選定ガ出來ルガ、最後ノ一人ト云フモノガ非常ナ紛擾ノ種ニナルモノデハナイカト思フ、是ハ一寸官僚式ノ方ヲ私ハ賛成スルガ、

寧ロアトノ三人ハ行政官廳之ヲ囑託スト云ツヤウナ風ニ三人宛出スト云フ事ガ、却テ調停委員會ノ構成ヲ迅速ナラシメ、公平ナラシメ平和ナラシメル基デハナイカト思フ、此構成ハ公平ノヤウデアッテ七面倒クサイ仕事デアリマスガ、何カ斯ウシナケレバナラヌト云フ理由ガアリマスカ

○長岡政府委員 只今御讀上ニナリマシタ條文ニ依リマシテ、前段ノ御質問ヲ御了解ト考ヘマス、知事ガ委員長ニナルノカ、内務大臣ガ委員長ニナルノカ、大シタコトハ出來マイト云フ御見込デゴザイマシタガ、只今ノ御朗讀ノ條文、ソレニ續イタ條文ヲ御覽ニナルト、委員長ハ當事者カラ選舉スルコトニナッテ居リマス(藏園委員「ソレハ附タリデス、構成ダケヲ御話下サイ」ト呼フ)其問題ニ付キマシテハ過日鈴木參與官カラ清瀬君ニ御答致シタト記憶シテ居リマスガ、大體ニ於キマシテ勞資ノ間ニ立ッテ雙方適任デアルト云フヤウナ人ヲ見付ケルコトハ困難ハナカラウ、爭議ニ關係ノナイ公平ナル第三者デアリマス、何レノ肩モ持タヌト云フヤウナ人ヲ撰擇スルコトハ事實上不可能デハナカラウ、鈴木參與官ハ世人ノ名前マデ御示シナリマシタガ、各地斯ウ云フ事ニ御堪能デ、非常ニ兩方ノ信賴ヲ受ケテ居ラレル方ハ可ナリアルノデアリマス、イツン行政官廳ガ任命シタラ宜カラウト云フヤウナ御希望ガゴザイマシタガ、

其事ハ後ニ書イテアルノデアリマシテ、一定ノ期間ノ間ニ中立ノ委員三名ヲ選舉出來ナカッタ場合ニハ、藏園君希望ノ通り行政官廳ガ三名ヲ任命スルコトニナツテ居ルノデゴザイマス

○藏園委員 ソレハ非常ナ紛擾ノ結果、要スルニサウ云フ事ニナルノデアッテ、最後ノ救済策デアアル、サウ云フ事ヲ初メカラ救済策マデ考ヘテ居ル位ナラバ、モット良イ方法ガアリサウナモノト思フノデス、ソレカラ強制調査委員會ト云フモノハ、今一寸長岡長官ガ御話ニナツタガ、其調停委員會ト云フモノハ是ハ又不思議ナモノデ、委員ノ選定ガ出來タトスレバ九人ガ茲ニ召集サレマス、サウシテ何處ニ出ルノカ知ラスガ、行政官廳ノ何處カニ出ルノデアリマセウ、サウシテ委員ダケデ御相談ヲナサイト云フ譯ニナツテ來ル、召集ハ行政官廳ガ召集シテ之ヲ開會スル、サウシテ調停ノ方法ハ全ク指揮官——指導者ト云フモノナクシテ、全ク選定セラレタ委員ノミガ出テ相談スルト云フ、是ハ洵ニ自由ナ事デ宜シイデセウ、所ガ九人ノ委員ノ中カラ議長ガ一人出ル、其議長ガ出タアトハ同數デアリマス、此場合ニ於テ私が御聽キシテ置カナケレバナラヌ事ハ、本會議デモ私ハ質問シマシタガ、ソレハ實際ノ問題トシテハ斯ウナルノデス、議長ガ一人デアト八名ト云フモノハ四名宛同數デア

ル投票權ヲ持ツテ居ルノデアルカ、又ハ議長ハ最後ノ可否同數ノ場合ノ決定權ダケヲ與ヘルノデアリマスカ、コ、ガ實際問題トシテハ大變ムヅカシイ問題デアアル、長官モ御承知ノ通り地方ノ縣會其他ニ於テハ斯ウ云フ問題ガ起ツテ居ルデセウ、議長ハ投票スルコトハ出來ナイト云フ問題ト、イヤ議長ハ一票ヲ投ズルコトハ差支ナイ、採決ニ加ハルコトハ差支ナイ、サウシテ可否同數ノ場合ニハ更ニ議長ノ決定權ガアルノダ、斯ウ云フ事ハ、行政裁判所ト内務省トノ見解ガ始終違フテ居リマスカ、議長モ委員ノ一人デアル以上ハ、矢張投票權ヲ持ツコトハ明カラウト思フ、所ガ世間一般ニ於テハ議長ガ出タ方ガ

ルヤウナ心配ガ又出テ來ル、ソレガ本則デセウ、私モ其通り解釋スル、所ガ世間デハサウデナイ、議長ヲ出シタ方ガ負ケダ、貴衆兩院ノ協議會ハ議長ヲ出シタ方ガ負ケニナル、是ハ特別ノ申合ガアツテ、議長ハ投票權ナシトナツテ居ルカラサウナツテ居ルノデアアル普通ノ場合ニハサウアルベキ筈デアアル、ソコデ私ハ尙ホ此議長ニ決定權ヲ與ヘルト云フ事ガ抑モ策ノ得タルモノデアアルカ、ドウカト云フ問題ニ入りタイ、ソレハ本會議デ申シタ通り、一體調停委員會ト云フモノハ多數デ決シタ所ガ何等ノ效能ノナイモノデアアル、然ルニ議長ニ決定權ヲ與ヘタナラバ、唯多數デ勝

テ、之ニ決定權ヲ與ヘルガ宜シイト云フヤウナ一般ノ通則ニ基イテノ御答辯デアリマシタガ、長官ハ之ニ對シテ何か非常ナル御確信デモアツテナツタ仕事デアリマスカドウデスカ、ソレヲ御伺ヒ致シマス

○長岡政府委員 何等ノ效果ガ無イト云フ御言葉ヲ再々御繰返シニナリマスカ、ソレニ對シテ私が反對意見ヲ持ツタ譯デモアリマセヌガ、併シ世ノ中ノ事ハ法律バカリデ治マルモノデハナク、裁判上ノ宣告ノ如キ效果ヲ齎ラシマシタ所デ、是ハ實際數千ノ當事者ヲ之ニ依ラシメルト云フコトハ不可能デア

アル、徒ニ是コソ紛爭ヲ惹起スルコトデアリマスカラ、外國ノ立法例ニ於キマシテモ二三ノ外ハ皆持タシテ居リマセヌ、併ナガラ矢張輿論ト云フモノガ力強イノデアリマシテ、大體此場合ニ於テ仲裁案ト云フモノガ出來マシテ、又輿論モ之ヲ支持スルト云フコトニナリマシタナラバ、之ヲ無視シテ非ヲ通スト云フヤウナ事ハ、殆ド問題トシテ考ヘマスレバ別デアリマスカ、事實上出來ナイコトデアアル、矢張正シイ輿論ノ審査委員會ノ決定ニ對シテハ、先ヅ力強イモノデアルト考ヘテ居リマス、議長ニ決定權ヲ與ヘマシタコトモ、議長ハ御承知ノ如ク當事者カラ選出シタ委員デアアルガ、爭議ノ關係者カラハ議長ニナラヌコトニナツテ居リマシテ、第三者デアアル所ノ委員ノ中カラ議長ガ出ル

○長岡政府委員 府縣會ノ問題ハ御答致サナイコトニ致シマス、此場合ニ於キマシテハ議長ハ投票權ト採決權ト兩方持ツテ居ルト云フ解釋デアリマス、ソレガ又多クノ會議體ノ通則デアラウト心得テ居リマス

○藏園委員 サウデアレバ又サウデア

コトニナツテ居リマスカラ、不幸ニシテ會議ノ結果調停ガ出來マセヌデモ、先ヅ之ニ依テ調停案ト云フモノガ出來マスレバ、是ガ力強イ爭議解決ノ案ニナルト云フコトヲ信ジテ居ル次第デアリマス。

○藏園委員 次ニ御尋シタイノハ調停委員會ノ第十二條ノ「調停委員會ノ議事ハ之ヲ公開セス、行政官廳ハ調停委員會ノ承認ヲ得テ當該官吏ヲシテ會議ニ臨席セシムルコトヲ得」斯ウ云フ規定ガアリマス、此當該官吏ト云フモノハ、一體是ハ主務官廳トハ誰カト云フコトニ對シテ、内務省ダト云フ御答デアリマシタガ、此當該官吏ト云フモノハ一體政府ハ當該官吏ト云フモノヲ御造リニナル御考デアリマスカ、即チ小作爭議ニ於テ小作調停官ヲ拵ヘタヤウニ、此勞働調停官ト云ッタヤウナモノヲ御拵ヘニナルノデアリマスカ、若クハ今ノ行政組織ノ上ニ於テ、警察部長ナリ何ナリヲバ臨席セシムル御考デアリマスカ、又此當該官吏ヲ臨席サセルト云フコトハ、是ハ承諾ヲ得テト書イテアリマスケレドモ、承諾ヲ無理ニ強ヒタナラバ、承諾ヲ得テトアリマスケレドモ、此承認ニ付テモ或ハ強制的ノ場合ガ出テ來ストモ限リマセヌシ、憲兵ヤ警察官吏ヲ臨席セシムルヤウナコトハ毛頭アルマジキコト、思ヒマスケレドモ、其點ハ之ヲ明確ニシテ置キマセヌト云フト、何ガ當該官吏デアるか殆

ド分ラヌ者ヲ置イテ、サウシテ憲兵ヤ警察官吏ヲ闖入サセル——闖入デモナイガ臨席セシムルト云フヤウナコトハ毛頭アラウトハ心得テ居リマセヌガ、又場合ニ依テハト云フ御考デモアリマス、此當該官吏ト云フコトニ付テ御説明ヲ御願ヒ致シマス。

○長岡政府委員 此行政官廳ト云フ問題ハ、午前ノ御質問ノ場合ト多少條文ニ於テモ違ッテ居リマス、解散權ノ場合ハ主務大臣ト云フコトヲ申上ゲマシタケレドモ、此場合ニ於テハ地方的ノ爭議ハ一切知事ヲシテ當ラセル積リニナツテ居リマス、又非常ナ影響ノ多イ爭議ニ付キマシテハ、内務大臣ガ行政官ト云フコトニナルコトモアリマス、隨ヒマシテ當該官吏ト云フコトハ調停事務ノ擔當ノ官吏デアリマシテ、憲兵ナドヲ之ニ闖入サセルヤウナ意思ハ毛頭アリマセヌ、又是ハ承諾ヲ得テト云フコトガアリマスカラ、強制シテ承認ヲ求メルト云フ言葉モゴザイマシタケレドモ、今日ノ官吏ハ當事者ガ承認ヲシナイ場合ニ無理ニ進入ッテ行クヤウナ、サウ云フエライ權力ヲ持ッテ居リマセヌ、先ヅ其點ハ御安心下サイ。

○藏園委員 調停官ヲ新設スルカ……○長岡政府委員 其事ハ今ノ府縣廳ノ官吏若クハ内務省ノ官吏ヲシテ當ラシメマスカ、或ハ此法律ガ通過致シマシタナラバ小作調停官ノヤウナア、云フ厖大ナ經費ヲ要求スル譯デハアリマセヌガ、多少之ニ對スル官吏ヲ増員致シマス、其點ハマダ決定致シテ居リマセヌ。

○藏園委員 ソレニ關聯シテ御聽キ致シテ置キタイノハ、内務省ハ數日前ニ大藏省ニ向ッテ追加豫算ノ要求ヲセラレタカノ如キ雲行ガアリマスガ、此七月一日カラ愈此調停法ヲ實施スルニ當ッテ、今年度ノ追加豫算ヲドノ位御要求ニナツタカ、モウ御話シ下スツテモ宜イダラウト思フ、ソレカラ又此調停委員會開設ノ場所ハ他ノモノト違ッテ、六大都市トカ何トカ云フノデナクシテ、各府縣ニ是ハ御置キニナル積リデアルカ、若クハ勞働爭議ノ餘計起ル地方ニ先ヅ試ミニ置クト云フヤウナ御考デアリマス、ソレヲ御伺シタイ、ソレカラ尙ホ御聽キシタイノハ勞働爭議ノ調停ヲ申請スル數ト云フモノヲ凡ソドノ位ニ御覽ニナツテ居ルカ、又ハ勞働爭議中ノ何歩位ガ此爭議ノ調停ヲ申請スルモノト大凡御見當ニナツテ居ルカドウカ、之ヲ一ツ御伺ヒ致シマス。

○長岡政府委員 豫算ノ問題ハ實ハ是ハ政府ノ内部ノコトデアリマシテ、私カラ申上ゲテ善イモノヤラ惡イモノヤラ存ジマセヌガ、モウ藏園君ハ御聞キニナツテ居リマスカラ隱シテモ仕方ナイノデ、赤裸々ニ申上ゲマスレバ、大藏省ニ追加豫算ヲ請求シタノハ事實デアリマス、併シ其額其他ニ付キマシテハマダ大藏省ト折衝中デアリマシテ、大

藏省デ之ヲ認メルカ、又此法案ノ運命ガ如何ニ相成ルト云フヤウナコトモ考慮シナケレバナリマセヌカラ、金額ノ問題、又此追加豫算ヲ出スカ出サヌカト云フコトハ、後日若シ御審議ヲ願フ機會ガアリマシタ其際マデ御猶豫ヲ願ヒタイ、ソレカラ場所ニ付キマシテハ是ハ勞働爭議ノ少イ場所ニハ格別官吏ヲ配置シマセヌデモ、今ノ所此事務ハ執レル見込デアリマスガ、非常ニ爭議ノ多イ地方ニハ増員致シタイ考ヲ持ッテ居リマス、併ナガラ場所ハ大體府縣廳ガ此爭議ヲ扱ヒマスケレドモ、調停委員會開催ノ場所ハ敢テ府縣廳構内ト限ッテ譯デアリマセヌ、最寄々々ノ便宜ノ場所、例ヘバ福岡デアリマスレバ、大牟田ニ爭議ガ起リマスレバ、便宜大牟田ノ市役所ヲ借受ケテ、最モ當事者ノ出頭ニ便宜ナ所デ開クト云フヤリ方デ致シタイト考ヘテ居リマス。

○藏園委員 私人質問ハ大分山ガ見エト思ヒマス、第十九條ハ是ハ清瀬君ニ御委セシテ總代デ御聽キヲ願フコトニ致シマス、私ガ之ニ手ヲ著ケレバ迎モ亦半日ヤソコラデハ分リマセヌカラ、之ニハ手ヲ著ケマセヌ、後ト簡單ナ問題ヲ二三回ッテ置キマス、爭議當事者即チ勞働者側デアレバ、爭議團ノ幹部、一方ハ資本家、資本家ガ數人アレバ數人ニ對シテ、此爭議ノ際ニ於テ賄賂收受ヲシタ場合ニ於テノ規定ガ、歐米ニハ

御拵ヘニナルノデアリマス、若クハ今ノ行政組織ノ上ニ於テ、警察部長ナリ何ナリヲバ臨席セシムル御考デアリマス、又此當該官吏ヲ臨席サセルト云フコトハ、是ハ承諾ヲ得テト書イテアリマスケレドモ、承諾ヲ無理ニ強ヒタナラバ、承諾ヲ得テトアリマスケレドモ、此承認ニ付テモ或ハ強制的ノ場合ガ出テ來ストモ限リマセヌシ、憲兵ヤ警察官吏ヲ臨席セシムルヤウナコトハ毛頭アルマジキコト、思ヒマスケレドモ、其點ハ之ヲ明確ニシテ置キマセヌト云フト、何ガ當該官吏デアるか殆

トガアリマスカラ、強制シテ承認ヲ求メルト云フ言葉モゴザイマシタケレドモ、今日ノ官吏ハ當事者ガ承認ヲシナイ場合ニ無理ニ進入ッテ行クヤウナ、サウ云フエライ權力ヲ持ッテ居リマセヌ、先ヅ其點ハ御安心下サイ。

○藏園委員 調停官ヲ新設スルカ……○長岡政府委員 其事ハ今ノ府縣廳ノ官吏若クハ内務省ノ官吏ヲシテ當ラシメマスカ、或ハ此法律ガ通過致シマシタナラバ小作調停官ノヤウナア、云フ厖大ナ經費ヲ要求スル譯デハアリマセヌガ、多少之ニ對スル官吏ヲ増員致シマス、其點ハマダ決定致シテ居リマセヌ。

○藏園委員 ソレニ關聯シテ御聽キ致シテ置キタイノハ、内務省ハ數日前ニ大藏省ニ向ッテ追加豫算ノ要求ヲセラレタカノ如キ雲行ガアリマスガ、此七月一日カラ愈此調停法ヲ實施スルニ當ッテ、今年度ノ追加豫算ヲドノ位御要求ニナツタカ、モウ御話シ下スツテモ宜イダラウト思フ、ソレカラ又此調停委員會開設ノ場所ハ他ノモノト違ッテ、六大都市トカ何トカ云フノデナクシテ、各府縣ニ是ハ御置キニナル積リデアルカ、若クハ勞働爭議ノ餘計起ル地方ニ先ヅ試ミニ置クト云フヤウナ御考デアリマス、ソレヲ御伺シタイ、ソレカラ尙ホ御聽キシタイノハ勞働爭議ノ調停ヲ申請スル數ト云フモノヲ凡ソドノ位ニ御覽ニナツテ居ルカ、又ハ勞働爭議中ノ何歩位ガ此爭議ノ調停ヲ申請スルモノト大凡御見當ニナツテ居ルカドウカ、之ヲ一ツ御伺ヒ致シマス。

隨分是ハ弊害ガアツタト見エテ、大分規定サレテ居ルモノガアルト思ヒマスガ、全ク之ニ對シテハ何等考慮ヲ爲サル必要アリマセヌカ、能ク言フコトデアッテ、爭議團ノ幹部ガ資本家ニ買収サレタトカ、或ハ非常ニ安價ナ妥協ヲ遂ゲタトカ、又資本家ガ場合ニ依テハ親方式ノ者ニ一種ノ賄賂の行爲ヲ爲シテ、サウシテ此爭議ト云フモノガ開カラ開ニ葬ラレルト云フ場合ガアルコトハ、神聖ナル爭議ヲシテ全ク無意味ニ終ハラシメルヤウナコトガアリハシナイカ、之ニ付テ何カ御考慮ガアリマスカ、又ハ全ク無考慮デ過シテ居ル次第デゴザイマスカ

○長岡政府委員 賄賂ノ問題ハ外國ノ立法例ニモ多少サウ云フ規定ヲ置イタル所ガアルヤウデアリマスカ、此選出サレマシタ委員ハ、刑法ノ公務員ト云フコトガ出來ヤウト思ヒマスノデ、公務員ノ規定ガ當筈ルト思ヒマス、委員デナイ即チ調停委員ニ任命サレナカッタ者ニ對シテハ、刑法ノ背任罪ノ規定デ行ク外處罰ノ方法ガナイト思ヒマス

○藏園委員 最後ニ御尋スルコトハ、是ハ實際問題トシテ斯ウ云フコトガ起ルノデアリマス、訴訟ニシロ調停ニシロ、ドッチヨリカ取下ラシナケレバナラヌ場合ガアル、所ガ之ガ當事者本人即チ爭議ヲ申請シタ者ダケガ當事者ト斯ウ決定スレバ、餘リ問題ハ起ルマイト思フ、所ガ此當事者ノ氏名ヲ今御發表

ニナツテ居リマスルガ、一爭議ニ於ケル當事者ガ唯一定シタモノト斯ウ見レバ、取下ニ關スル規定ノ必要ハアリマセヌガ、爭議團ニ付テハ恐ラクハ幹部ガ何處ニ所在ガアルカト云フコトハ、爭議ヲ現ニ提出シテ居ル人ダケヲ幹部ト見レバ敢テナイノデアリマスカ、ソレガ幹部ノ所在ガ移動ガアツテ、サウシテ左傾或ハ右傾シタ場合ニ、爭議ニ付テ、或場合ニ於テソノ生溫イ調停ナゾニ拘束サレルコトハ嫌ヤダト云フノデ、此方カラ當事者トシテ爭議ヲ提出シタノニ、一方カラ之ヲ横合カラ取下ゲテシマフト云フ場合ガ、必ズ起ル筈ダト思ヒマスガ、本法ニハ取下ニ關スル規定ガ毛頭アリマセヌ、尤モ西洋ナゾト違ッテ、サウ權利ノ擁護ト云フモノデモナイノデアリマスカ、取下サレテモ仕方ガナイ場合ガアリマスカ、折角調停ヲ進メテ居ル場合ニ於テ、横合カラ來テ我が當事者ナリト云フ者ガアツテ、ソレガ取下ラシタト云フ場合ニ於テハ、サウ云フ如ナ結果ヲ來スモノト思ヒマスガ、此時ニ當ッテ行政官廳ハドウ云フ御取扱ヲ爲サル御考デアリマスカ、私ハ今日ハ午前中デ濟マス考デ、極ク簡單ニ、而モ再質問セズシテ聞キ置ク位ノ積リデアリマシタガ、ソレデサヘモ多クノ時間ヲ要シマシテ誠ニ御氣ノ毒デナリマシタガ、私ハ此點ヲ一箇條伺ッテ質問ヲ打切りタイト思ヒマス

○長岡政府委員 委員調停ノ場合ニ於

テ法文ノ規定ハアリマセヌガ、取下ヲ認メル積リデアリマス

○原(惣)委員 私ハ先ツ前提ニ二ツバカリ御聽キ申シタイト思ヒマス、長岡政府委員ハ之ヲ雇傭契約ノ問題ノ一ツノ例デ、勞働者ノ委員ト云フモノハ全ク雇傭關係ノモノヲ主トシテト云フ言葉ガアリマシタガ、私ノ言フノハ立法上ニ付テ政府委員ノ一言一句吐カレル所ノ責任ノ下ニ組合法ガ出來上ツタ、後ノ解釋ニ重大ナ關係ヲ持ツノデアリマス、斯ノ如キ解釋ハ立法者ノ意思デナクテ、立法ノ精神デアラナケレバナラヌト云フコトデアリマスカ、少クモ立法者ノ意思ト云フモノガハッキリシテ居リマセヌガ、過去ニ於ケル御答辯モ亦今後ノ勞働組合ノ解釋ニ重大ナル關係ガ——將來御尋スルニ付テ重大ナル關係ヲ持ッテ居リマスガ、立法ノ精神トシテ何處迄モ其御責任ヲ御果シ下サル所ノ一言一句責任アル答辯デアラレルト云フコトヲ一ツ駄目ヲ押シテ置キタイ

○長岡政府委員 了承致シマシタ

○原(惣)委員 ソレデハ先ツ根本的ノ立テ方ニ付テ伺ヒマスガ、是ハ一ツノ前提デアリマスカ、鈴木政務官ガ非常ニ御寂サウデアリマスカ、先ツ鈴木政務官ニ伺ヒマス、私ハ此度ノ勞働組合法ノ立法ニ付テ如何ナル法律デモ、其根柢ノ其主義ガ明カナナツテ居ラナケレバナラヌ、例ヘバ民事訴訟法ヲ草案スルニシテモ、刑法ヲ草案スルニシテ

モ、如何ナル趣意デ此法律ヲ編纂スルカト云フコトガ根本問題ト思ヒマス、私ハ勞働組合法ト云フモノハ所謂資本家擁護ニ立ツカ、勞働者保護ニ立ツカ、ドッチカ決メナクテハナラヌ、即チ利益相反スル現在ノ狀態ノ下ニ生レマシタ所ノ勞働組合法デアリマスカ、若シ資本家ノ擁護ナラ勞働者ヲ何處迄モ虐ゲナケレバナラヌ、勞働者ノ擁護ナラ或程度迄資本家ヲ前提トシテ居ル、此權利ト自由ヲ解放スルト云フコトガ勞働組合ノ根本デアリマス、然ルニ鈴木君ハ此法律ハ兩方トモ調和スルノデアルト云フコトヲ過日御話ニナリマシタガ、ソレハ勞働組合法ト云フモノガ茲ニ在リマスカ、其後ノ解釋ハ公平ナ立場デ立論シナケレバナラヌ、又判斷シナケレバナラヌノデアリマスカ、此勞働組合法ナルモノハ勞働者擁護ノ上カラ立案シテ居ルノカ、或ハ資本家擁護ノ上カラ立ッテ居ルノカ、即チ其根本ノ立法精神ノ立テ方ガ何レニ立ッテ居ルノデアアルカト云フコトヲ御尋致シタイ

○鈴木政府委員 只今原サンカラ名指ノ御質問ガゴザイマシタカラ御答致シマス、只今ノハ此法律ノ根本ニ觸レタ重要ナル問題デアリマスカ、實ハ今日迄ニ斷片的ノ御答ハ致シタ積リデゴザイマスカ、此法律ノ根柢ハ現在アル勞働組合ヲ公認シテ、之ニ所謂據ルベキ基準ヲ與ヘテ、運動ヲ秩序のナラシム

ルト云フコトニ在ルノデアリマス、一體資本家擁護ノ爲デアルカ、或ハ勞働者擁護ノ爲デアルカト云フ御質問ニ對シテハ、是ハ何ト御答シテ宜シイカ、適切ナル言葉ハゴザイマセヌガ、是ハ結局勞働者ヲ基本トスル法律ノ立前ニナルノデゴザイマス、併ナガラサウ云フ趣旨ノ立法デアリマシテモ、法文ノ上ニ於キマシテハ、勞働者ヲ保護スルヤウナ條文バカリデナク、或ハ之ニ定義的ノ規定モ必要デアリマセウシ、又之ヲ監督スルト申シマスカ、取締ルト申シマスカ、少シ言葉ハ不穩當デアリマスカ、サウ云フ趣旨ノ條文モ必要ニナッテ來ル次第デアリマス、資本家擁護ノ爲ノ勞働組合ト云フモノハアルベキモノデハナカラウト考ヘテ居リマス

○原(惣)委員 今度御質問致シタイノハ、第十九條ノ解散ト云フコトニ付テデアリマス、之ニハ「勞働組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得」トアリマス、是迄法人トハ認メナカッタモノ、中ニモ、事實上ハ認メルト云フヤウナ政府委員ノ言葉ガ始終アリマシタガ、認メルモ認メナイモナイ、現實ニ在ルモノヲ認メナイト言ウタ所デ、私ハ意味ヲ成サナイト思フ、此十九條ノ組合ノ解散ノ問題デアリマスガ、是ハ御認ニナッタ法人ダケヲ指スノデアリマスカ、或ハ所謂今迄事實上御認ニナッタ組合ヲ指スノカ、ソルトモ兩方御適用爲サルノデスカ

○鈴木政府委員 是ハ長岡長官カラモ

一寸御答致シタヤウデゴザイマスガ、再度ノ御質問デスカ私カラモ御答致シマス、之ヲ一言ニシテ要約シマスレバ、此十九條ノ解散ト云フノハ、勞働組合ノ法人格ノ否認ト云フコトニ歸著スルノデアリマスガ、ソレハ甚ダ不徹底デハナイカ、事實上アルモノナラバ致方ガナイデハナイカト云フ御意見ハ、是ハ如何ニモ御尤ト思ヒマスガ、此十九條ノ趣旨ハサウ云フコトデアリマス、ソレカラ解散シタ後事實上ノ組合トシテ存續スルト云フコトハ、是ハ別箇ノ關係ニナリマスノデ、此意味ニ於キマシテ此組合法ノ第十九條ノ解散ハ、治安警察法第八條ノ解散トハ趣意ガ違フノデアリマス

○原(惣)委員 尙ホ御尋致シマスガ、從來資本家ニ工合ノ好イヤウナ組合ハドント、認メタガ、例ヘバ日本勞働聯合評議會ト云フヤウナ組合ハ認メナイト思ヒマス、サウシマスト資本家ニ工合ノ好イ組合ハ此規定ニ依テ解散シ、其以外ノ組合ハ治安警察法第八條ノ第二項ニ依テ解散セラレルト云フコトニナリマスガ、此組合法ノ趣旨ハ何處ニ在ルノデアリマスカ、從來存在セル右傾的ノモノハドント、認メテ、其以外ノモノハ所謂事實上認メルト云フコトヲ口ニシナガラ、一面ニ於テ治安警察法第八條第二項デ解散ヲスル、即チ解散權ヲ二ツ持ツコトニナリハセヌカ、斯ウ云フヤウナコトニスルノハ、所謂

官廳ガ任意ニ、勞働組合ヲ勝手ニ決メサシ、勝手ニ解散サスト云フ二ツノ解散權ヲ持ツト云フコトニナルノデアリマスガ、此點ハドウデアリマスカ

○鈴木政府委員 治安警察法第八條ニ依ル解散ハ、八條ニ依ル要件ニ備ハッタトキノ解散デゴザイマス、第十九條ハ茲ニ書イテアル通りノ要件ニ備ハッタ時ニ解散スルノデアリマス、サウナルト如何ニモ資本家擁護ノ意味ノ右傾的ノ組合ダケ殘ツテ、左傾的ノ組合ハ殘ラヌデハナイカ、斯ウ云フ御質問ノヤウデアリマスガ、此點ハ政府ト致シマシテハ慎重ニ考慮シテ決シテ左様ナ事ノ無イヤウニ、偏頗ナ所置ヲ致ス考ハ持ッテ居リマセヌ、ノミナラズ或ル方面カラハ今ノ社會局ト云フモノハ少シ左傾シ過ギテ居ルト云フ御非難モ被ッテ居ルヤウナ譯デアリマシテ、決シテ原サノ只今ノ御心配ニナルヤウナコトハナカラウト思ッテ居ルノデアリマス

○原(惣)委員 長岡政府委員ニ御尋致シマスガ、先刻蜜柑ヲ食ハウガ、酒ヲ飲マウガソレハ隨意ダト云フ事實上ノ問題ニ付テ御話ガアリマシタガ、蜜柑ヲ食ハウト酒ヲ飲マウトモ御勝手ダト云フコトハ、事實問題トシテハ宜シイガ、所謂組合ト云フモノヲ事實上ハ認メテヤルト云フ御言葉ハ何處ニ效果ガアルノデアリマスカ、ソレヲ御尋シタイ

○長岡政府委員 認メルト云フコトハ言葉ガ少シ積極的ニ聞エルカモ知レマ

セヌガ、詰リ法人格ヲ持ッテ居ナイ、本法ニ依ラザル勞働組合ニ付テハ、從前通ノ扱ヒヲスル、即チ此組合法ニ依ル組合ニナツテモナラヌデモ、ソレハ自己ノ撰擇ニ委セル、私ノ引例ハ少シ不謹慎デアッタカモ知レマセヌガ、兎ニ角此勞働組合法ニ依テ、法人トナリタイモノガアルナラバ、手續ヲシテ宜シイ、又事實上今迄通りヤッテ行キタイ、法人ニナリタクナイ、隨テ組合法ノ御厄介ニナリタクナイト云フ組合ハ、今迄ト同ジヤウニ存續シテ差支ナイ、斯ウ云フ意味デアリマス

○原(惣)委員 尙ホ御尋シタイト思ヒマスノハ、第二條ノ「勞働條件ノ維持又ハ改善ヲ目的トス」ト、二項ノ「共同利益ノ保護増進ヲ目的ト爲ス」ト云フモノ、中ニハ、當然營業能力ガ含マレルト思フノデアリマス、勿論此勞働組合ガ其維持改善ヲ目的トシ、進ンデ其共同利益ノ保護増進ヲ目的トスル以上ハ、其目的ノ範圍内ニ於テ營業能力ノ有ルコトハ當然デアリマスガ、果シテ此當然デアル——歐米ニ於テハ皆銀行デアルトカ、購買組合デアルトカ、或ハ劇場ヲ持ツトカ、色ニナモノガアリマスガ、劇場マデ行カクテモ、其位ノ購買信用組合及ビ銀行ト云フヤウナモノハ、其目的ノ範圍内カラ當然ハ含ムモノト私ハ思ヒマスガ、其點ニ付テハドウ云フ御考デアリマスカ

○長岡政府委員 營利事業ハ含マナイ

ト云フ解釋デアリマス

○原(惣)委員 サウ致シマス此共同利益ノ保護増進ヲ目的トシト云フ第二項ノ所謂目的ノ範圍ト云フモノハ、ドウ云フモノヲ指スノデアリマセウカ

○長岡政府委員 一例ヲ申シマス、組合員ノ家族ニ對スル病氣見舞會ノ支出ノ如キ、講演會ヲ開キ、講習會ヲ開キ、機關紙ヲ發行スルガ如キコトハ、勿論、其他其濟修養等ニ類スル事項デ、組合員ノ共同利益ヲ保護増進スベキモノハ、總テ本法ノ規定ノ範圍内ト心得テ居リマス

○原(惣)委員 ソレデハ例ヘバ斯ウ云フ場合ハ如何デスカ、此勞働條件ノ維持改善ト云フコトノ勞働運動ノ起ルコトハ、常ニ私ハ必然的ニ政治運動ヲ含ンデ居ルト思フノデアリマス、即チ時間ヲ八時間制ニセイ、賃金ノ最低ヲ斯ウセイト云フヤウナコトハ、常ニ私ハ政治行動ヲ含ンデ居ルト思ヒマスガ、政治行動ニ付テハ御認ニナルノデアリマス、如何デスカ

○長岡政府委員 實ハ此事ハ再々繰返シテ御答ヘ申上ゲマシタガ、尙ホ重ネテ申上ゲマスルガ、勞働組合ハ勞働條件ノ維持改善、其他組合員ノ共同利益ノ保護増進ヲ圖ルコトヲ目的トスルモノデゴザイマシテ、政治行動ヲ目的トスルモノデハゴザイマセス、若シ勞働組合ニシテ政綱ヲ掲ゲ、繼續シテ政治運動ヲ致シ、即チ政黨トシテ行動スル場

合ニ於キマシテハ、政治結社ニ關スル治安警察法ノ適用ノ範圍ニナルト考ヘマスルガ、勞働組合ガ其本來ノ目的ヲ達スル手段トシテ、一致的、斷片的ニ政治行動ヲ爲スガ如キ場合ニ於テハ、是ハ現在法令ニ基ク他ノ諸團體ガ之ヲ爲シテ居ルト同様ニ、是ハ認容スルノ外ハナイト考ヘテ居リマス

○原(惣)委員 先刻ノ鈴木委員ノ御答ト、ソレカラ此二ツノ問題ニ關聯シテ、何處マデモ勞働者保護ノ爲ニ成立ツテ居ルト言ヒマスガ、營利ヲ認メナイ、又政治行動ハ簡單ナトキニハ認メルト云フヤウナコトヤ、十九條第八條ノ第二項ニ依テ、兩方ノ解散權ヲ以テ常ニ傳家ノ寶刀デ脅カシテ居ルト云フコトデアリマシテ、此組合法全體ヲ通ジテ、少クモ法人ニシタ效果ハ認メテヤルト仰シヤルガ、法人ニナルコトハ實際小サナ勞働組合ナドデハ困ル、殊ニ有ユルコトヲ報告ヲ致シテ調査ヲ命ズルト云フコトニナツテ居ル、サウ云フコトニナ

リマス、法人ニシテ貰フト云フコトハ一體何ノ利益ニナルノカト云フコトガ分ラヌ、勞働者ハ法人ニシテ貰ハヌ方ガ餘程宜イノデアリマス、サウシテ勞働者ヲ基調ニシテ何處マデモ勞働者ノ利益ノ爲ニ本法ヲ設ケタト言ツテ居ル、今ノ鈴木委員ノ御意見ハ全ク裏切ラレテ居ルノデアリマス、法人ニシタ方ガドレダケノ利益ニナツテ居ルカ、ソレカラ營業ヲ認メナイ、政治行動ヲ認

メナイ、ソレカラ常ニ解散ヲ以テ脅威スル、何處ニ條文ヲ通ジテ——立法者ハ勞働者ヲ基調ニシテ、其保護ニ當ツテ居ルト言ハレタ、勞働者ノ利益ノ規定ガ何處ニ在ルノデアアルカト云フコトヲ御聽キシタイ

○鈴木政府委員 勞働者ノ保護ニナルベキ規定ハ、此組合法中ニ相當ニアルト心得テ居リマス、少シモ利益ニナルコトハナイ、寧ロ不利益ナコトバカリダト云フヤウナ意味ノ原サンノ御言葉デアリマシタガ、此政治運動ノコトニ關シテハ、先程長岡長官カラ御答ヘヲ致シタ通りデゴザイマスガ、是ハ一言ニシテ要約致シマスレバ、政治運動ヲ目的トスレバ、ソレハ政社ニナルノデアリマス、併ナガラ勞働條件ノ維持改善ヲ圖ル爲ニ、政治運動ヲ手段トシテスルコトハ一向差支ナイノデアリマス、斯ウ云フコトニ歸著スルト私ハ思フノデアリマス、即チ直接行動デハ困ル、議會政策ト申シマスガ、所謂「バーリヤメントアリズム」デ、勞働條件ノ維持改善ヲ一般的ニヤラウト云フ、ソウ云フヤウナ政治運動ハ一向差支ナイト云フ趣旨デゴザイマス、ソレカラ營利事業ノコトニ付キマシテハ、是モ一寸長岡サンガ昨日デアッタカ申シマシタガ、所謂共同利益ノ保護増進ノ範圍内ニ於テ、色色ナ仕事ヲスルコトハ宜シイガ、純然タル營利事業、ソレニ依テ利益ヲ得テ「フアンド」デモ増サウト云フヤウナ大

仕掛ナ仕事ヲ始メマス、是ハ考ヘ物ダト云フコトハ今日マデノ經驗ニ徴シテ、斯様な營利事業ハ多ク失敗スル、所謂士族ノ商法ニハ當リマセヌケレドモ、勞働者御自身ノ持前ノ仕事ニハ堪能デアリマセウケレドモ、其他ノ營利事業ト云フコトハ、ドウモ損ヲシ易イ、是ハ獨占業デアレバ別デアリマス、水道ヲ敷クトカ、他ニ競争ノナイ獨占業デアリマスレバ別デアリマスガ、然ラザレバ勞働者ノ營業ト云フモノハ「フアンド」ト云フモノヲ却テ破壊スル實例ヲ見テ居ルコトガ今日マデノ所デハ多イノデアリマス、併ナガラ機關新聞ヲ發行シテ、其會員ニ配ツタ餘リヲ一般ニ賣出スト云フヤウナコトハ、一向差支ナイノデアリマス、斯様なコト居リマスカラ、其點モ決シテ勞働者ヲ窘メタト云フ結果ニハナラヌノデアリマス、是モ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラ法人ニ致シマシタ趣旨ハ、昨日モ一寸申上ゲマシタガ、所謂權利義務ノ關係ヲ明白ニシテ、活動ヲ便宜ニスルト云フコトガアリマス、是モマア一ツノ便宜ニハナリマス、或ハ保護ト云フ言葉ガ言過ギテ居リマスナラバ、便宜ト云フ言葉デ現ハシテモ宜シイノデアリマスガ、其外ニ此組合法ニ於キマシテハ、第十四條ニ於テ「組合員タルノ故ヲ以テ爲シタル解雇ノ意思表示ハ之ヲ無効トス」トアリマシテ、是モ勞働者ノ保護ト云フコトニモ相成ル次第デ

アラウト存ジマス、ソレカラ第十五條ノ所謂免責規定、組合ノ理事ガ爲シタル雇傭關係上ノ損害ニ付テハ免責ニスル云フヤウナコトモ利益ノ一ツデアリ、而シテ登録稅ヲ課セナイト云フ點、之ニ付テハ登録稅ヲ課セナイダケデハイカヌ、營業稅モ所得稅モ課セナイコトニシヤウデハナイカト云フ、此意見モ頗ル傾聽スベキモノトハ思ヒマシマス、政府ニ於テハ今度ハ先ヅ登録稅ヲ免除スル位ガ適當デヤナイカト云フコトヲ信ジテ斯様ニ立法致シタ譯デアリマス、尙ホ長岡長官ガ申シタ他ノ一ツノ要件ト致シテ、組合ヲ法律デ公認スルト云フコトハ、是ハ何ニモナラヌ、勞働者ニ取テ大變有利ナ地位ヲ與ヘルモノデナイ、今日マデハ勞働組合ニ這入ルト云フト、動モスルト非常ニ赤化シタヤウニ思ハレタヤウナ時代モアツタガ、ソレハ間違デアルカモ知レヌ、間違デアルカモ知レヌガ、兎ニ角サウ云フヤウナ時代モアツタノデアリマスルカラ、全體ニ此勞働組合法ニ依テ組合ヲ公認スルト云フコトモ、勞働者ノ利益ノ一ツニナルノデハナイカ、斯様ナ事柄ヲ擧ゲテ本案ノ意思ノ存スル所ヲ御説明致シタ次第デゴザイマス、解散權ノコトニ付キマシテハ先程申シタ通りデ左程御心配ニナル程ノコトハナカラウカト存ズルノデゴザイマス

○原(惣)委員 只今仰セラレマシタ此十四條十五條ノ規定デゴザイマス、大體是ガ氣ニ入ラナイノデス、第一、十四條ノ規定デ「解雇ノ意思表示ハ之ヲ無効トス」是ハ本會議デ申上ゲタカラ言ヒマセヌガ、結局オ前ハモウ解雇シテヤツテカラオ前ハモウ俺ハ取合ハヌノダト云フトキニ、實際勞働者ハ之ヲ裁判所ニ訴ヘル金モアリマセヌシ、又此解雇セラレタト云フ立證責任ハ勞働者ガ持タナケレバナラヌ、實際不可能ナコトデアアル、ソコデ使用者ガ不都合ナ事ヲシタトキ、使用者ガ本當ノ條件ニ箱ルコトヲヤラナカッタトキノ使用者ニ對スル罰則規定ト云フモノガ一ツモナイ、之ニ對シテ勞働者ノ方ハ罰則規定ヲ設ケテ惡イ事ガアレバドン罰シテ居リマスガ、肝腎使ッテ居ル方ガ不當ナル事ヲヤツテ之ニ反シタトキニハ、之ヲ罰スルノダト云フ使用者ヲ罰スル規定ガ一ツモ置イテアリマセヌガ、其點ハ所謂資本家擁護デアツテ、勞働者擁護カラ成立ッテ居ル法案デナイト私ハ思ヒマス

○長岡政府委員 第十四條ノ御解釋ハ是ハ御意見ノ相違ニナルカト存ジマスケレドモ、併シマア法律的ニ言ヘバ、之ニ違反シタ場合ニハ現狀回復ナリ、損害賠償ナリノ訴訟ニ依テ解決ヲ圖ル外ハナイノデス、ドウモ此權利行爲ニ關スル事ハ面倒デアリマシテモ裁判所以外ニハ解決スル方法ハ、今ノ法制デハムヅカシイノデスカラ、致方ナカラウト考ヘテ居リマスガ、併シ昨日モ申上

ゲマシタヤウニ、使用者側ニ於テ採用ノトキニ誓約書ヲ取ル、將來決シテ如何ナル勞働組合ニモ加入致サルベク、之ニ反シタル場合ニハ如何ナル御處分ヲ受クルモ毛頭異存無之ト云フヤウナ誓約書ヲ取テ居ル所ガアリマシマス、サウ云フコトハ之ニ依テ少クトモ阻止出來ルト考ヘテ居リマス、尙ホ此使用者ヲ罰スル云々ト云フ御意見デゴザイマスガ、要スルニ勞働組合法デゴザイマシテ、使用者ノ規定デゴザイマセヌカラ、勢ヒ其等ニ關スル規定ガナイト云フコトヲ申上ゲル外ナイト思ヒマス

○原(惣)委員 勞働組合法ハ所謂使用者及雇傭者、ソレガ當事者ナノデアリマス、當事者ニ關スル所ノ組合法デ、サウシテ勞働者ノ方ダケ罰スレバ宜イノダト云フコトハ、一體勞働者ノ組合法ト云フモノハドウ云フ意味合デ御設ケニナツタノデアリマス

○長岡政府委員 勞働組合法制定ノ事ニ付キマシテハ、先程參與官カラ縷々申上ゲテゴザイマスカラ、重テ一ツ事ヲ申上ゲルノモ却テ御迷惑ト存ジテ差控ヘマスガ、使用者ヲ罰スルト云フヤウナコトハ、マア問題ニナレバ今ノ十四條ノ場合ニ之ヲ民法上ノ問題ニスルカ、刑罰法令ノ問題ニスルカト云フコトダラウト考ヘマスガ、其外ニ何カ勞働組合ニ關聯シテ使用者處罰ノ必要ガアルト云フヤウナ御意見デモゴザイマスノデゴザイマスガ、質問ニ對シテ質

問スルコトハ失禮デゴザイマスケレドモ……

○原(惣)委員 私ノ言フノハ使用者ガ不當ナル條件ヲ附シ、又ハ不當ナル解雇ヲヤツタ場合ニ於テ、若シモ是ガ唯無効ダ——無効ダトアリマスガ、之ガ無効ダト決マツタトキニ於テモ、雇傭者ノ方カラ不當ニ解雇スルト云フヤウナトキニ於テハ、之ニ對シテ少クトモ不當ナル解雇ヲシタトキ、若クハ不當ナル條件ヲ與ヘタ場合、之ガ若シモ本當ニ勞働者ヲ擁護スルノデアレバ、使用者ノ方ニ於テモ惡イ事ガアレバ同一ニ罰シナケレバナラヌ、其罰則規定ノナイコトハ資本家擁護デアツテ、勞働者擁護ニナラヌデヤナイカ、斯ウ云フ意味デアリマス

○長岡政府委員 保護立法ト致シマシテハ、他ニ實ハ色々法令モゴザイマスノデ、勞働者ヲ虐待致シマシタトカ、待遇上間違ッタコトヲ致シマシタヤウナ場合ニハ、工場法其他ノ規定デ工場主使用人等ヲ罰スル途モアルノデゴザイマスガ、只今ノ御説明ヲ承リマシテモ、要スルニ勞働者組合法ニ關聯シテ、刑罰法令ヲ使用者側ニ入レナケレバナラヌト云フコトハ、第十四條ノ問題ニ歸著スルヤウニ伺ヒマシタ、伺ヒ違デアリマシタラ失禮デゴザイマスガ——サウシマスト是ハ要スルニ私法上ノ問題ニ止メタ方ガ宜イカ、或ハ十四條違反ノ刑罰法令ヲ以テ臨ムガ宜イカト云フ

御議論ニ歸著スルカト考ヘマスノデ、此點ニ付キマシテ御質問ノ御模樣カラ想像致シマスルト、恐ラクハ原君ハ十四條ヲ刑罰法令ニシタ方ガ適當デアラウ、斯ウ云フ御意見ノヤウニ拜聽致シマシタガ、ソレハ色ミ意見ノ立方モゴザイマセウ、併シ政府ハ十四條ノ違反ニ對シテハ、先ヅ私法上ノ問題ニ殘シタ方ガ此際適當デアラウ、斯ウ云フ考ヲ以チマシテ之ヲ刑罰法令ニ致サナカッタ次第デアリマス

○原(惣)委員 モウ其以上水掛論ニナリマスガラ申シマセヌガ、兎ニ角何レニシテモ資本家ノ爲ニ都合ガ宜クテ、勞働者籍メノモノデアルト思フ、其次ニ第十條ノ第一ニ「基金ノ設置、管理及處分ニ關スルコト」斯ウ云フコトハ總テ不法デアル、此勞働者ノ組合ニ、實際言フト、此勞働組合法ノ唯一ノ目的ハ、此中協約權ト、モウ一ツハ同盟罷工ガ出來ル、所謂十五條ノ免責規定デアリマスガ、之ニ關聯シテ同盟罷業ガ出來ルト云フコトガ所謂勞働組合法ノ目的、勞働者保護ノ所以ナノデアリマス、所ガ勞働組合ガ愈是カラ同盟罷業ヲ三十日間續ケナケレバナラスト云フコトニナリマス、實際上其勞働者ハ勞働組合ノ財產ト云フモノハ極ク秘密ニシテ置イテ、機密ヲ資本家ニ握ラレヌヤウニシテ、ドン／＼運動ヲ續ケナケレバナラスト、ソレニ之ヲ第十條ニ出シテ、常ニサウ云フ事ハ總會ノ決議ヲ經ナケレバナラスト、

ス、サウシテ財產狀態等ヲ行政官廳ニ一々報告シナケレバナラスト云フコトニシテアル、勞働者ノ免責規定ヲ一寸置イテ、サウシテ誤魔化シテ手モ足モ出ヌヤウニスル、殊ニアレノ財產ハ是ダケシカナイカラ、ソレヲ差押カ假處分ヲヤツテシマヘト云フノデ、差押假處分ヲ資本家ハドン／＼出來ル、勞働者ハ動キガ取レナイコトニナル、是ハ所謂勞働者本位ノ立法デナイ、甚ダ當ヲ得テ居ナイモノト思フ、何處ニ之ガ

勞働者ノ擁護ガアルカ、政府殊ニ鈴木參與官ハ、勞働者ヲ基調ニスルト云フ口廣イコトヲ仰セシナリマシタガ、何處ニサウ云フ勞働者ノ利益ノ點ガアルカト云フコトヲ疑フ、此條文ヲ通ジテドノ點カラ見テモ皆資本家擁護デアアル、皆勞働者ノ不利益ナ事バカリデアアル、此事ニ付テドウ云フ御考ガアルカト云フコトガ一ツ、ソレカラ次ニ第十五條ノ問題ニ移リマスガ、十五條ノ但書ニ「雇傭關係上ノ損害」トゴザイマスガ、雇傭關係上ノ損害ト云フコトハドウ云フ範圍デアリマスカ、之ヲ承リタイ

○鈴木政府委員 基金ノ事ニ付テ一寸申上ゲマスガ、第十條ニ於キマシテ基金ノ事ガ書イテアリマスガ、是ハ單ニ基金ヲ設置スル、設置シタナラバ其管理ノ方法ト處分ノ規定サヘ設ケレバ宜シイノデアリマス、一々之ヲ基金ノ内容ヲドウシヤウ、金額ハ幾ラデアルト云フヤウナコトヲ、別ニ決議スルト云

フ意味ノコトデハ無イノデアリマス、而シテ之ガ報告ヲ取り、第十六條ニ於キマシテ政府ハマダ報告ヲ爲サシムルコトガ出來ルト云フダケノ規定デゴザイマス

〔安藤委員長代理委員長席ヲ退
キ森田委員長復席〕

必ズ自發的ニ報告シナケレバナラスト云フ趣旨デモゴザイマセヌケレドモ、ソレモイケンナイノダト云フコトデアレバ、ソレハ御意見トシテ承ツテ置ク次第デアリマス、而シテ原サンハドウモ勞働者保護ノ規定ハ無イト仰ヤイマシタガ、私ハアルト存ジマシテ、先程陳述致シタノデアリマスガ尙ホ此使用者ヲモウ少シ何トカセヨト云フ御意見デアリマスレバ、是ハ先程長岡長官ガ申シマシタヤウニ、是ハ勞働組合法デアリマスカラ、自然サウナルノデアリマス、唯

使用者ニ關シテモ何カ保護ヲ加ヘルヤウナ規定ガ欲シイト云フノデアルナラバ、是ハ外國ノ立法例ニモアリマシヤウニ、勞働法典ト云フヤウナ大法典ヲ拵ヘテ、第一章勞働組合、第二章勞働爭議法、第三章工場ニ關スル規定トカ云フ風ナ大法律ヲ作リマスト云フト、ソレガ一ツノ法律ニ纏ッテシマフノデアリマス、日本ニ於キマシテハ、必要ニ應ジテ今日勞働立法ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、此法案ガ幸ニ通過ヲ致シマスレバ、應テ來ルベキモノハ勞働協約法ノ規定デアラウト存

ジマス、而シテ斯ノ如クシテ發達シタ後ニ、更ニ之ヲ纏メテ一ツノ龐大ナル勞働法典ヲ作ル時代ガアルカトモ存ジマス、今日ハマダ其程度ニ至ッテ居ナイト存ズルノデアリマス、而シテ第十五條ノ但書ノ後段ニ於ケル雇傭關係上ノ損害ト云フコトニ付キマシテハ、是ハ極メテ嚴密ニ解釋ヲ致シタイト思ヒマスカラ、此ニ書イタモノガアリマスカラ、長官カラ申上ゲル方ガ便宜デアラウト思ヒマス

○長岡政府委員 原君ノ後段ノ御質問ノ雇傭者ニ生ゼシメタル雇傭關係上ノ損害ト云フコトノ解釋ノ御尋デアリマスガ、勞働組合ノ役員ガ、其組合員ヲシテ同盟罷業ヲ爲サシムル時ハ、組合員ハ其雇傭者ニ對シテ雇傭契約ニ基ク債務ヲ履行スルコトガ出來マセヌ、此場合ニ於キマシテ、雇傭者ハ作業中止ノ爲メ、直接色ミノ損害ヲ受ケマスノミナラズ、間接ニモ種々ナル損害ヲ蒙ルノデアリマス、例ヘバ注文ニ遅レタカ、得意ヲ失タタカ、營業上ノ損害モアリマス、雇傭關係ノ損害ト申シマスノハ、此種ノ直接及間接ノ損害、即チ雇傭關係ニ關聯シテ生ズル損害ヲ申スノデゴザイマス、此免責規定ヲ置イタ次第デアリマス、從ヒマシテ蛇足デハゴザイマスルガ、或ハ其場合ニ機械ヲ壞シタトカ、人ヲ殺傷シタト云フコトノ免責ハ之ニ含ンデ居ラヌヤウニ存ジテ居リマス

○原(惣)委員 私ハ是ハ十五條ニ於テハ非常ナ保護規定ト云ウテ居ラレマスガ、實際言フト、免責規定ハ但書ガ勞働者ニ取ッテハ所謂根本ノ宜イ所ナンデスガ、今御聽キシマスルト、雇傭關係上ノ損害、ソレガ本當ノ雇ノ損害ダケダ、ソレ以外ノヤツハ第一項ニ同ジク這入ル、勿論機械ヲ壞ハストカ、人ヲ殺ストカ云フコトハ、司法上ノ問題デ、或ハ毀棄罪ヲ構成スルトカ殺人罪ヲ構成スルコトハ勿論デアリマス、併ナガラ同盟罷業十五條ノ但書ノ規定ニ於テハ勞働者ハ唯一ノ保護規定デアリマスガ、同盟罷業ヲスルト云フコトハ、即チ今日限り仕上ゲラシテシマハナケレバ、之ヲ納メナケレバ此工場ハ何萬圓損ヲスルカ分ラナイ、ソコデ民法ノ四百十六條ノ第一項ノ法條ハ、損害賠償以外ノ第二項ノ豫見シ得ベカリシ損害、即チサウ云フ損害モ是ニハ含ンデ居ラヌコトニナル(長岡長官「含ンデ居ル」ト呼フ)是ハ貴方ノ云フノハ雇傭關係上ダケデアリマセウ、私ノ言フノハ今日納メルト云フコトハミス、分ッテ居ルノニ、三十日間同盟罷業ヲシタカラ、ソレニ伴フ所ノ損害ハ莫大ナモノデアアル

○長岡政府委員 一寸御中言ニナッテ失體デアリマスガ、先程申上ゲマシタノハ、雇傭關係ノ不履行ニ依リマシテ、直接作業中止ノ爲メ損害ヲ受ケル時モアルシ、間接ニ只今例ニ御引キニナリマシタヤウニ、營業上ニ損害ヲ受ケルコトモアル、此直接及間接ノ損害ガ雇傭關係ニ關聯シテ、ソレヲモ含ムト云フ意味ニ私御答申上ゲタノデアリマス

○原(惣)委員 ソレデシタラ間違マシタ、ソレナラバ勞働者ニ非常ニ結構ナ事デス、最後ニ鐵道大臣ニ御問ヒシタ

○長岡政府委員 實ハ其事モ過日御答申上ゲマシタガ、此委員會ハ日本デハ餘程沿革ノ古イモノデアリマシテ、明治三十四年頃ト記憶致シマスガ、兵庫縣ノ淡路ニ於キマスル淡陶株式會社ガ、三十四五年頃造リマシタノガ始メデ、鐘紡ノ京都工場、其他全國ニボツ、出來テ來テ居リマス、詰リ御話ノ鐵道ノ現業委員會ト云フモノモ、懺力數年前ニ出來マシタ、併シ官業ニ致シマシテモ、此外ニ八幡製鐵所、或ハ吳ノ海軍工廠ト云フヤウナ所ニモ出來テ居リマス、是ハ委員會ト申シマシテモ、是ハ――

原君ハ獨逸ノ事情ニ非常ニ御詳シイノデ御承知デゴザイマセウガ、日本ノ委員會ト云フモノハ、獨逸ノ「ベトリ」ヴス・レーテ」ニ在リマシヤウナモノ、英國ノ「ホイットレー」ニ在リマス、ヤウナ委員會デハアリマセヌ、全ク亞米利加式ノ唯工場内ニ於キマスル意志疏通機關、勞働者カラ選出サレマシタ者ガ資本家側ノ監督者ト、時々集ッテ色々ナ問題ヲ協議スルト云フヤウナコトデ、此外國ノ殊ニ歐羅巴ニ造ッテ居リマス委員會、詰リ經營參加ト云フヤウナコトニ進ンデ居ルノデハアリマセヌ、隨テ是等意思ノ疏通機關ト致シマシテ、現業委員會ガ出來マスコトハ望マシイコトデ、政府ハ決シテ是ハ阻止致シマセヌ、併シ嘗テ財團法人協調會カラ、此現業委員會制度ヲ法律ヲ以テ強制シテ

總テノ工場ニ造ラシメ、或ル人數ヲ使ッテ居ル工場、鑛山ノ現業委員會ヲ造ラセヨ、斯ウ云フ建議ガ出タコトガゴザイマス、ソレデ私モ實ハ此間モ申上ゲマシタガ、隨分現業委員會制度ノ大多數ハ實地見テ歩キマシタ、併シ此成績ト云フモノハ、多ク雇傭者側ト勞働者側トガ現業委員會ヲ利用シテ、平素意思ノ疏通ヲ圖ラウ、斯ウ云フ兩方ニ誠意ノアッタ時分ニ、始メテ此妙味ヲ現シ效果ヲ舉ゲルノデアリマシテ、兩方共現業委員會ナシカハ造ラスト云フヤウナトキニ、無理ニ強制シテ造リマシタ場合ニハ、是ハドウモ效果ガ舉ラナイヤウニ私共ハ見テ居リマス、隨ヒマシテ一部ノ貴族院ノ方ニハ會テ非公式ニ是ハ法律ヲ作ッテハドウウカト云フ御注意ヲ受ケマシタケレドモ、只今ノ所現業委員會ナルモノ、所謂工場委員會制度ヲ無理ニ造ラセル、法律ヲ以テ強制スルト云フ意思ハ持ッテ居リマセヌ、併シナガラ是ガ任意ニ出來ルコトハ歡迎スベキコト、考ヘテ居リマス、隨テ勞働組合ト現業委員會トハ、兩者相並ンデ行ハレテ差支ナイノデアリマシテ、將來ノ豫想ヲ申上ゲルコトニ相成リマスカ知レマセヌガ、現業委員會ガアリマスル所デハ、勞働組合ガ背景ニナリマシテ、丁度政黨カラ公認サレテ、代議士ノ方ガ選舉場裡ニ出ラレテ、衆議院ニ席ヲ御持チニナル如ク、勞働組合デ現業委員會ノ代議士タルベキ者ヲ選ブ、所謂勞働組

合ガ選舉母體ニナルカモ知レマセヌ、
併シ是ハ將來ノ見込デアリマシテ、ド
ウナルカ分リマセヌガ、要スルニ制度ノ
性質トシテ現在アルヤウナ工場委員會
ト勞働組合トハ兩者竝ビ行ハレテ差支
ナイ、現業委員會勞働組合ニ向ッテハ、
法律ヲ以テ強制スル意思ハ持ッテ居ラ
ヌト云フコトヲ御承知ヲ願ヒタイト思
ヒマス

○森田委員長 本日ハ是デ散會致シマ
ス、明日ハ午前十時ヨリ開會致シマス
午後四時五十二分散會

大正十五年三月一日印刷

大正十五年三月三日發行

衆議院事務局

印刷者 民友社